

CONTENTS

Chapter 1

大学における入学から卒業まで	001
教務課案内	002
各種 届出・願出	003
学生証と学籍番号	004
通学・学割	006
各種証明書	007
Portal-OSU(ポータルシステム)とは	008
学期と授業時間、試験時間	010
履修申請	011
授業(休講・補講・欠席 等)	014
定期試験	017
追試験	018
成績	019
学籍異動(休学・退学・除籍 等)	024
授業料(等)の納付について	026

Chapter 2

17K 入学生

カリキュラム、履修についての注意等	030
-------------------	-----

Chapter 3

15K 編入生

カリキュラム、履修についての注意等	060
-------------------	-----

【 Web版冊子 】

学生便覧

本学の規程を記したものです。

- ①大阪産業大学学則
- ②大阪産業大学学部通則
- ③大阪産業大学修学規程
- ④大阪産業大学学費納入規程
- ⑤諸規程

Webシラバス (授業計画)

講義(授業)の計画や、内容の概要を記したものです。

※閲覧方法

大阪産業大学トップページ⇒在学生の皆様へ⇒
⇒教務課⇒Web版冊子・配布物⇒学生便覧システム
 ↓
 Webシラバス

Chapter

0

1

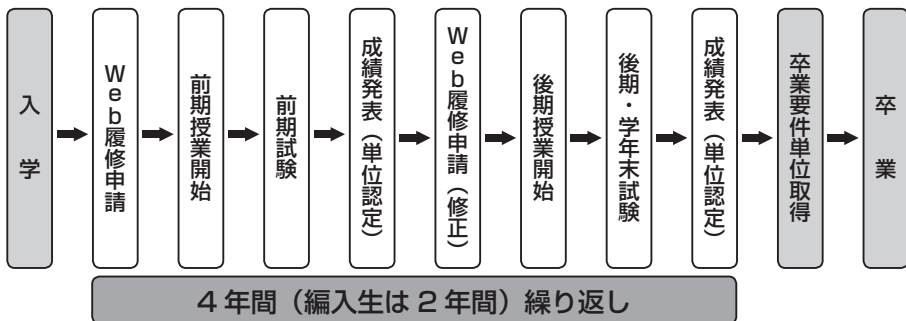
大学における入学から卒業まで

《一年間の流れ（学年暦概略）》

※詳細月日は「学年暦」（別に配布）「学生ポータルシステム」でご確認ください。

4月上旬	新入生・新編入生Web履修申請 前期授業開始
4月中旬	履修申請修正
5月上旬	履修登録確認表発行
7月下旬	前期授業終了 前期試験実施（～8月上旬） 追試験受付（～8月上旬）
8月上旬	夏期休業開始（～9月中旬） 追試験実施（申込み者で可否判定で可の者）
9月上旬	9月期卒業予定者成績発表
9月中旬	在学生前期成績発表 在学生後期履修申請修正期間 後期授業開始
9月下旬	9月期学位授与式（9月期卒業式）
10月上旬	履修申請登録確認書発行
12月下旬	年内授業最終、冬期休業開始（～翌年1月上旬）
1月上旬	後期授業再開
1月下旬	後期授業終了 後期・学年末試験実施（～2月上旬） 追試験受付（～2月上旬）
2月中旬	追試験実施（申込み者で可否判定で可の者）
2月下旬	卒業予定者成績発表（第1次）
3月上旬	卒業予定者成績発表（第2次）
3月中旬	学位授与式（卒業式） 在学生後期・学年末成績発表 在学生時間割等配布、ガイダンス
3月下旬	在学生Web履修申請

《入学から卒業までの流れ》



このハンドブックは、卒業するまで大切にご利用下さい。
入学年度のための配布となります。

教務課案内	履修、時間割、授業などについての質問、相談を受け付けます。	
場 所	本館（11号館）1階（中央キャンパス）	
受付時間	<p>平日 9:00～17:00 土曜日 9:00～12:30 ※夏期休暇中は10:00～16:00（土曜日はお休みです）</p> <p>※日曜・祝日（授業実施日を除く）、夏期、冬期および一斉休業期間はお休みです。</p>	
連絡先	<p>大阪産業大学 教務部 教務課</p> <p>所在地 〒574-8530 大阪府大東市中垣内3-1-1</p> <p>電 話 072-875-3001（代表） F A X 072-871-9856 E-mail kyoumuka@cnt.osaka-sandai.ac.jp</p>	
業務内容	各種申込・届出	休学、退学、再入学、転籍（学科変更） 学籍に関する届け出（留学生在籍確認含む） 履歴変更に関する届け出（住所、氏名、連絡先の変更等）
	授 業 料	授業料（延納、猶予）
	履修・時間割・授業	履修申請、授業、授業の欠席、休講、補講、教室変更、シラバス
	試 験 ・ 成 績	定期試験の実施、追試験の実施、成績発表
	各種証明書発行	成績、卒業見込、在学、卒業 等

届出・届出 種別	備考	場所	詳細ページ
学籍に関すること			
学生証再発行	窓口にて随時発行します。	教務課	4-5
住所異動届 ※	学生証が必要になります。		
氏名等変更届 ※	住民票または戸籍謄本、印鑑が必要になります。		
休学願 ※	詳細については窓口へ問い合わせてください。		24-25
退学願 ※			
復学願			
再入学願			
通学・学割に関すること			
実習用通学証明書	実習、卒業研究等で学外に通学する場合に使用します。(担当教員の申請用依頼文書が必要)	教務課	—
学生旅客運賃割引証(学割証)	パピルスメイト(証明書自動発行機)にて発行しています。		6
授業料に関すること			
授業料(等)延納願	詳細については窓口へ問い合わせてください。	教務課	26-27
授業料(等)納入猶予願			
除籍取消願			
授業料(等)納入および除籍猶予願			
授業に関すること			
欠席届	・就職活動(採否にかかわる)に関する欠席	キャリアセンター	15
	・上記以外の欠席	教務課	
公欠届	・教職関連の欠席	教務課	—
	・課外活動に関する欠席	学生生活課	
	・就職ガイダンス出席に関する欠席	キャリアセンター	
試験に関すること			
試験用臨時学生証	試験期間中のみ発行できます。	教務課	17
追試験受験願	申し込み期間をご確認ください。		18
単位に関すること			
既修得単位の認定	申し込み期間をご確認ください。	教務課	15

※ 奨学生の方は、学生生活課にも連絡をしてください。

**学生証と
学籍番号**

学生証

学生証は、大学の学生であることを証明するものです。他人に貸与あるいは譲渡することはできません。

本学で行う定期試験の際には、受験票となりますので、忘れた場合は受験できません。また、教職員から呈示を求められた時は、いつでも呈示できるように常に携帯し、紛失・破損等のないよう取扱いには十分注意してください。

学生証の記載事項に変更があった場合は、直ちに教務課に届け出て訂正を受けなければなりません。



(学生証・表面)

学籍番号

学籍番号は入学時に決定します。学籍番号は、入学した学科(学部)に在籍する限り変わることはありません。

在学(在籍)期間はもとより、卒業後もそのまま残る固有の番号です。

学内における事務処理は、すべてこの学籍番号によって行われますので、正確に覚えましょう。

学籍番号は6桁の数字とアルファベットで表示します。

(例) 17 B 001
入学年度 学科コード 個人番号

アルファベットは、学部・学科を表し、コードは下記のとおりです。

学 部	学 科	学科コード
国際学部	国際学科	P (平成29年度から開設)
	文化コミュニケーション学科	P (平成28年度まで)
人間環境学部	生活環境学科	V (平成28年度まで)
	スポーツ健康学科	T (平成28年度まで)
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	T (平成29年度から開設)
経営学部	経営学科	B
	商学科	C
経済学部	学科配属をしない1・2年次 (3年次より下記の学科配属を行います)	E
	経済学科・国際経済学科	E
デザイン工学部	情報システム学科	H
	建築・環境デザイン学科	M
	環境理工学科	V (平成28年度から開設)
工学部	機械工学科	F
	交通機械工学科	G
	都市創造工学科	K
	電子情報通信工学科	L

<p>いつ必要なのか</p>	<p>◎試験を受けるとき ◎授業で出席確認を行うとき ◎履修相談をするとき ◎図書館を利用するとき ◎通学定期を購入するとき ◎各種証明書の発行申請（証明書自動発行機パピルスメイト）を使用するとき</p>																																								
<p>有効期限</p>	<p>・入学後4年間（編入生は2年間）です。 ・5回生以上に在籍する学生は、毎年度末に学生証の更新が必要になります。 2月中旬以降に教務課で更新の申し込みをしてください。3月末に旧学生証と無料で引き換えます。なお期間外の更新は有料（1,000円が必要）です。</p>																																								
<p>再発行をする時 (紛失した場合)</p>	<p>学生証を紛失・破損した場合は教務課に届け出て再発行手続きを行ってください。再発行は有料（1,000円が必要）です。 学生証を紛失した場合は、直ちに警察に届け出て、教務課で再交付を受けてください。本学学内で紛失した場合は、学生生活課にお問い合わせください。</p>																																								
<p>学生証の返還</p>	<p>以下の場合は、学生証を速やかに教務課へ返還してください。 1. 卒業、退学、除籍により学籍を離れたとき。 2. 学生証の再交付を受けた後に旧学生証が見つかったとき。</p>																																								
<p>氏名、住所等の 変更について</p>	<p>本人および保護者の以下の内容が変更の場合は、速やかに教務課まで届け出てください。 携帯電話番号、住所、自宅電話番号、氏名、本人の通学区間</p>																																								
<p>学生証裏シールの 更新について</p>	<p>当該年度の在籍を証明する大切な証明書です。裏シールは通学定期購入の有無にかかわらず、全員年度ごとに更新が必要です。 当該年度のシールを貼付していない学生証では、通学定期も購入できません。 新年度の裏シールは、毎年3月下旬から教務課で交付しますので、忘れずに更新してください。</p> <div data-bbox="296 925 636 1125" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">2017年度</td> <td style="width: 20%;">学籍番号</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;">氏名</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>在籍確認票</td> <td>現住所</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>通学区間</td> <td>～</td> <td>間</td> <td>～</td> <td>間</td> </tr> <tr> <td>東通</td> <td>発行年月日</td> <td>通用期間</td> <td>発行駅</td> <td>記事</td> </tr> <tr> <td>車学</td> <td></td> <td>カ月</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>券定</td> <td></td> <td>カ月</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>控期</td> <td></td> <td>カ月</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>カ月</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right; margin-top: 5px;">大阪産業大学</p> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">(学生証・裏面)</p>	2017年度	学籍番号		氏名		在籍確認票	現住所				通学区間	～	間	～	間	東通	発行年月日	通用期間	発行駅	記事	車学		カ月			券定		カ月			控期		カ月					カ月		
2017年度	学籍番号		氏名																																						
在籍確認票	現住所																																								
通学区間	～	間	～	間																																					
東通	発行年月日	通用期間	発行駅	記事																																					
車学		カ月																																							
券定		カ月																																							
控期		カ月																																							
		カ月																																							

通学・学割	<p>通学定期・学割証は正しく使いましょう。</p> <p>※こんな時に摘発されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の定期券・学割証等を友人等に貸したとき ・有効期限切れの定期券・学割証を使用したとき ・記入事項（日付など）を書きかえた時 ・自宅および大学の最寄駅以外の区間で購入し使用したとき
通学定期	<p>通学定期購入の際は、学生証の裏面にある通学区間（路線別）を記入し、教務課で確認印を受けてから、通学証明書として使用することができます。各交通機関の購入窓口で学生証を提示して購入してください。（交通機関によっては、別途通学証明書が必要となる場合があります。各交通機関に確認し、必要な場合は、教務課で押印を受けてください。）</p>
通学区間	<p>通学区間の証明は、現住所（学生証に記載されている住所）の最寄駅から、大学の最寄駅までの最短距離に限ります。</p> <p>なお、通学以外の目的（アルバイト）のために通学証明することはできません。また、通学区間の変更や通学定期乗車券控の記入欄がなくなった場合は、教務課で裏面シールの追加発行と確認印を受けてください。</p>
通学区間の変更	<p>住所変更等で通学区間および路線に変更があった場合は、教務課に申し出て、確認印を受けてください。</p>
学生旅客運賃 割引証 ・ 使用上の注意	<p>学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）とは、片道乗車区間の距離が営業キロで100kmを超える区間を乗車する際には片道乗車券が、600kmを超える場合には往復割引乗車券が2割引となるものです。（JRのみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学割証の有効期間は発行の日から3ヵ月です。 ・証明書自動発行機（パピルスメイト）で即日交付することができます。 <p>学割証を不正に使用した場合には、使用者は3倍の運賃を追徴され、以後の発行を停止されることがあります。また、本学の学割制度そのものを失い、他の学生に迷惑をかけることにもなりかねませんので、十分に注意してください。</p>

各種証明書

証明書は、パビルスメイト（証明書自動発行機）で発行するものと、教務課窓口で発行するものがあります。

パビルスメイト（証明書自動発行機）から発行可能な証明書等

成績証明書	和文	300円	成績表 注) 年間2通まで	無料
	英文	1,000円		
卒業見込証明書 ※(1)		200円	履修登録確認表 注) 年間2通まで	無料
成績・卒業見込証明書		500円	学生旅客運賃割引証（学割証） 注) P6参照	無料
在学証明書	和文	200円	健康診断書 (当該年度、健康診断受診者に限る)	200円
	英文	1,000円		
試験用臨時学生証		500円	初期パスワード通知書	200円

※注意事項

1. 英文証明書の発行には、事前に、氏名のローマ字表記を、教務課に申請が必要です。
2. 試験用臨時学生証は、使用后、教務課または短期大学部事務室まで必ず返却下さい。有効期限は発行当日限りです。
3. 間違いや余分に発行・購入した証明書等の返金は一切できません。
4. 発行機に関する質問等は教務課または近くの窓口までお申し出ください。

※(1)卒業見込証明書:当該年度に卒業が可能であることを証明するもので、就職活動等に必要です。

次の条件に該当する場合のみ、4月1日から発行されます。

- ①3月末日において、3年以上在学(編入生は1年以上在学)し、既に卒業要件単位数を充足している。
- ②3月末日において、3年以上在学(編入生は1年以上在学)し、新年度に向けて、卒業要件単位数を充足できる履修申請(クラス登録含む)が問題なく完了している。

・履修申請修正期間中において、卒業要件単位数を充足できる履修申請修正を行った場合、翌日から発行が可能となります。

証明書自動発行機
(パビルスメイト)



【パビルスメイト設置場所および稼働時間】

・中央キャンパス：本館（11号館）1階ホール	月曜日～金曜日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00
・東キャンパス：クリスタルテラス1階学生サービスセンター	月曜日～金曜日 9:00～17:00 土曜日 9:00～12:30
・梅田サテライトキャンパス（大阪駅前第3ビル19階）	月曜日～金曜日 9:00～21:00 土曜日 9:00～18:00


—注意— 夏期・冬期休暇中は稼働時間を変更します。(掲示、ポータルシステム等でお知らせします。)

教務課窓口で発行する証明書等

成績証明書（英文） ※交付まで3日間を要します。	1,000円	在籍（期間）証明書	200円
		卒業証明書	200円
卒業証明書（英文） ※交付まで3日間を要します。	1,000円	教員免許状取得見込証明書 ※交付まで約3日を要します。	200円
		調査書（大学院受検用）	500円
在学（籍・籍期間）証明書（英文） ※交付まで3日間を要します。	1,000円	調査書（学内推薦）	無料
		通学証明書（学生証裏シール）	無料
単位修得見込証明書	300円	学力に関する証明書(単位修得証明書) ※交付まで約1週間を要します。	300円

注) 卒業生は、教務課窓口または郵送で証明書の申込を受け付けます。

詳細は大学ホームページをご確認ください。

Portal-OSUとは	<p>ポータルシステム「Portal-OSU」とは、修学に関する情報（時間割、休講、補講、講義連絡、教室変更、お知らせ、その他）を包括し、Web上で提供する総合案内システムです。お知らせや履修講義などについては、学生個人に応じた内容の情報を表示させることができます。また、メール配信設定をすることにより、それらの情報を大学からの個人連絡メールで受け取ることもできます。</p> <p>このPortal-OSUの一部の機能は、通常のパソコン、ブラウザだけでなく携帯電話などからでも利用可能です。</p> <p>また、教務課からのお知らせや講義連絡等は12号館にある掲示板も同時に確認してください。</p> <p>※ポータルシステム利用方法の詳細は、別冊子「Web履修申請ガイドブック」をご参照ください。</p> <p>※利用者個人の履修に応じた情報（時間割、休講、補講情報等）は履修確定後からサービスが開始されます。</p> <p>※携帯電話で参照可能な項目は、お知らせ、休講、補講、教室変更、講義連絡、メール通知設定等です。</p>
	
ポータルシステムの利用環境について	<p>= 注意 =</p> <p>次の環境であれば、Webシステムを利用することができます。（インターネット提供者や回線の種類は問いません。）</p> <p>推奨OS：Windows Vista、Windows 7、Windows 10</p> <p>推奨ブラウザ：Internet Explorer 6 から Internet Explorer 8 まで Microsoft Edge</p> <p>これ以外のご利用については動作の保証はできません。</p> <p>※詳細は Web 履修申請ガイドブックをご参照ください。</p> <p>※スマートフォン、タブレット端末はサポートしていません。一部表示されない部分（時間割等）がある場合があるので、ご注意ください。また Web 履修申請は行えません。</p>
主な機能	
① お知らせ	<p>教員および教務課、学生生活課などの本学の各部署からの各種お知らせを確認できます。</p>
② 時間割	<p>休講、補講、教室・教員変更など講義に関する連絡を確認できます。</p>
③ 教務システム	<p>Web履修申請、シラバスへの入口です。</p> <p>履修登録、履修登録確認表、成績表ダウンロード等はこちらからアクセスが可能です。</p> <p>※履修登録確認表、成績表はパピルスメイトからも入手することができます。（P13 参照）</p>
④ 定期試験時間割	<p>定期試験の時間割は右図④から確認することができます。試験時間割の発表は、試験実施日の1週間前からになります。</p>
⑤ メール通知設定	<p>設定をすることで、休講、補講、教室変更、講義連絡等大事なお知らせをメールで受信することができます。</p> <p>メール通知設定の登録を必ず行いましょう。</p> <p>メールは、PC メールアドレスと携帯メールアドレスを登録することができます。（注意：携帯電話などのメール設定に受信制限をかけている場合は、「osaka-sandai.ac.jp」に対して受信制限を解除してください。）</p>

Portal—OSUへのアクセス(ログイン)方法

ポータルシステムにログインする際は、IDとパスワードが必要です。

パソコンからのログイン方法

大学TOP (<http://www.osaka-sandai.ac.jp/>)

在学生の皆様へ

OSU大産大システム

Portal-OSU

→ログイン画面へ

Portal-OSUログイン画面

携帯からのログイン方法 ※一部ご利用できない機種があります。

https://j24-plw.osaka-sandai.ac.jp/uniprove_pt-mobile/

QRコード (バーコード機能付の携帯電話の場合にご利用ください)

ユーザID : s + 学籍番号(英数字はすべて半角小文字)
 パスワード : パスワード通知書は入学時に配布します。コンピュータ演習室利用時のものと同じ

※パスワードを忘れた方は、証明書発行機で初期パスワード通知書を手入れしてください。(有料: 200円)なお、初期パスワード(入学時に交付)を変更した方は、パスワードを初期値に戻す手続きが必要です。初期パスワード通知書に併載されている、パスワード初期化願により、情報科学センター(本館5F)で手続きを行ってください。

ポータルシステム 画面紹介

Portalシステム パソコン画面

「メール通知設定」リンクをクリックすると、「編集画面」が表示されます。

ここをクリックして必ずメール通知設定を行いましょう!

Portalシステム 携帯電話画面

携帯画面からは、お知らせ・休講・補講・教室変更・講義連絡・メール通知の設定が行えます。

配信先状況

【メール通知設定方法】

- お知らせを受け取りたいPC・携帯メールアドレスを入力します。
【重要】メール送信時に使用するメールアドレスを登録してください。
- 登録をクリックします。配信先状況が「未設定」⇒「仮登録」へ変わります。
- 本登録を行うため、届いた仮登録メールの件名、本文の変更は行わず、「返信」をします。
- 6分程度で、設定完了メールが届き、配信先状況が「仮登録」⇒「本登録」へ変わります。

※配信先状況が「本登録」にならないと、お知らせメールが受信できません。

学期と
授業時間
試験時間

試験時間は授業時間と異なるので注意して下さい。
(授業時間中に行われる試験は除く)

学 期

前期と後期の2期に分かれています。

前 期	後 期
4月1日～9月20日	9月21日～3月31日

これに応じて前期開講科目、前期試験、後期開講科目、通年科目、後期試験などがあります。

授業時間

[授業時間]

時限	時間
1 限	9:00～10:30
2 限	10:40～12:10
3 限	12:50～14:20
4 限	14:30～16:00
5 限	16:10～17:40
6 限	17:50～19:20

※1限は90分授業(=1コマ)

※授業は1限～6限、月～土曜日まであります。

試験時間

[試験期間]

前期試験 (7月下旬～8月上旬)	前期終了科目・通年科目(中間試験)
後期試験・学年末試験 (1月下旬～2月上旬)	後期終了科目・通年科目

※通年科目の前期試験は中間試験として行います。

[試験時間]

時限	時間
1 限	9:20～10:40
2 限	11:00～12:20
3 限	13:00～14:20
4 限	14:40～16:00
5 限	16:20～17:40
6 限	18:00～19:20

※通常試験時間は80分ですが、科目によっては60分の場合もあります。

履修申請

当該年度に単位を修得しようとする授業科目を申し込むことです。
履修登録は Web 履修申請システムにて 4 月（在學生は 3 月）、9 月（登録および修正を含む）の年 2 回です。
4 月（在學生は 3 月）の履修申請では原則、各自の学修計画に基づき、当該年度に必要なとなる科目を全て登録します。

所定の期間内に履修申請を行わなかったり、間違った履修申請を行うと、授業に出て試験を受けても、単位は修得できません。

履修申請は、コンピュータを利用して行います。操作（申請）方法は『Web 履修申請ガイドブック』に掲載されています。

申請システムを利用するためには ID とパスワードが必要です。コンピュータ関係の授業で使用する ID とパスワードと同じです。また、コンピュータを所有していない方のために申請期間中は、学内のコンピュータ演習室を開放します。

※詳細は『Web 履修申請ガイドブック』をご覧ください。

※履修と修得について

「履修」とは、単位を修得するために、教育課程に定められた授業科目を登録し学ぶことです。
「修得」とは、授業科目を学んだ結果、合格の評価を受け単位認定されることです。

履修申請手順

①必要な情報(モノ)をそろえる

履修申請をする前に、下の 1) ~5) の資料をそろえてください。
新入生は 4 月、在學生は 3 月です。

1) カリキュラム表 ハンドブック（この冊子に掲載されています）

2) 講義時間割 （毎年配布）

3) Web シラバス

シラバスとは、講義（授業）の計画や、講義内容（概要）を記したものです。
どんな講義が開講されているか、講義（授業）の内容や成績評価基準等も掲載されているので次の検索方法で確認しましょう。

【Web シラバス（授業計画書）検索方法】



4) 成績表

修得した科目や単位、卒業に必要な科目や単位を確認するために必要です。

5) 『Web 履修申請ガイドブック』

Web 履修申請の申請スケジュール、操作マニュアル等が掲載されている冊子（毎年配布）

②履修計画
を立てる



③履修申請の
手続きを行う

P11に記載の必要な情報を基に、『Web 履修申請ガイドブック』巻末の「クラス登録応募下書き用紙」も確認し、履修計画を実際に、「履修申請下書き用紙」に記入していきます。

履修計画における注意点

- ①履修する科目を選ぶために、事前に「Webシラバス（授業計画）」を読んでください。
- ②各時間帯に開講されている授業科目の中から、自分が受たい科目を選び、選んだ科目を各自で履修申請してください。学生一人一人の時間割の内容は、同じ学部学科であっても違ったものになります。
- ③卒業要件単位数を充足することに重点をおいて時間割を組んでください。
- ④学籍番号や学年により履修が制限されているもの、履修する講義が予め指定されているもの（既決履修講義）、抽選により履修者を決定するもの、プレイスメントテストの結果により履修指示がされているものなど、さまざまなタイプがあります。講義時間割の備考欄などに記載されている履修の条件をよく確認してください。
- ⑤既に単位認定を受けた科目を再度履修することはできません。
- ⑥各ガイダンスには必ず参加してください。

1) クラス登録科目応募

抽選により履修者を決定するタイプの科目は、履修申請に先立ち応募受付を行い、抽選処理を行います。抽選の結果当選した場合に限り履修できます。なお、当選した講義（クラス）は履修を取り消すことができません。詳細は『Web履修申請ガイドブック』巻末の「クラス登録応募下書き用紙」をご覧ください。

重要！クラス登録応募について

履修人数を制限している科目（講義時間割の科目名左側に「●」「○」「◎」印のある科目）を受講する方は、本申請の前にクラス登録応募してください。

クラス登録応募は、Webで「受付→抽選、履修クラスの決定→結果発表」という手順で行います。ただし、科目によっては、応募者多数の場合、受講できない（抽選にはずれる）ことがあります。

詳細は『Web 履修申請ガイドブック』の「クラス登録」を参照してください。

【クラス登録タイプについて】

I . 登録保障型 (講義時間割●印科目)	この科目は、同一曜日時に複数クラスが設定されています。科目と曜日時限を指定して応募します。クラス(教員)は指定できません。応募すれば必ず当選します。
II . 曜日時限指定抽選型 (講義時間割○印科目)	この科目は、複数の曜日時に複数クラスが設定されています。科目と曜日時限を指定して応募します。クラス(教員)は指定できません。希望の曜日時限すべてが定員を超えた場合ははずれることがあります。(曜日時限に希望順位をつけられます。)
III . クラス指定抽選型 (講義時間割◎印科目)	この科目は、複数の曜日時限または同一の曜日時に複数クラス設定されています。科目と曜日時限、クラス(教員名)を指定して応募します。希望のクラスすべてが定員を超えた場合ははずれることがあります。(クラスに希望順位をつけられます。)

抽選結果、当選クラス(教員名)につきましては、本申請までにWeb上で発表します。クラス登録講義につきましては、抽選・登録の結果、決定したクラスは原則取消すことはできません。

	<p>2) 本申請 履修計画（下書きした時間割）に基づいて、コンピュータを操作し講義を申請してください。申請画面を開くと履修可能な講義が表示されています。（内容は学生ごとに異なります。）。同時に抽選により受講を許可された講義と既決履修講義が表示されています。これらの講義は、取り消すことができません。なお、期間内ならば何度でも申請内容を変更することができます。申請が完了したら、必ず申請内容を印刷して保管しておいてください。</p> <p>3) 修正 申請した講義を修正（追加、削除）することができます。ただし、抽選により履修が決定した講義、既決履修講義は取消できません。修正が完了したら、必ず申請内容を印刷して保管しておいてください。</p>
履修登録 確認表	<p>Web履修申請期間終了後に、履修確定内容を確認するためのものです。 (5月上旬、10月上旬発行) 履修登録確認表にて、必ず申請した科目と相違がないか確認してください。 記載のない科目を受講し試験を受けても単位は認定されません。</p> <p>≪「履修登録確認表」はポータルシステム Portal-OSU の教務システム（履修・シラバス）にアクセスし、入手・印刷してください。 またはパピルスメイトでも年2回無料で発行することができます。≫</p>
教科書販売 について	<p><前期・通年科目> 在学生・・・毎年3月下旬の履修申請期間中に配布している「教科書購入申込書」を参照してください。 新入生・・・入学時に配布している「教科書購入申込書」を参照してください。 4月上旬から中旬にかけて、特設会場にての販売となります。 特設会場等詳細については、教科書申込書に記載しています。</p> <p><後期科目> 在学生の前期成績発表日より、16号館1階ブックセンターでの販売予定となります。 なお、販売期間、教科書リスト等については、ブックセンターにお問い合わせください。</p>

授 業

休 講

◎担当教員の都合による休講

担当教員の都合により授業ができない場合は、ポータルシステム [Portal-OSU](#) で案内します。

◎気象警報および交通機関途絶による休講

次の 1) ~ 3) のいずれかに当てはまる場合は休講となり、授業や試験は行われません。警報が解除、あるいは交通機関が正常に回復した場合は、下記のとおり授業あるいは試験が実施されます。

- 1) 大阪府下のいずれかの地域に「暴風警報」、「特別警報（大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪）」が発令されたとき。
- 2) JR西日本「学研都市線（片町線）」の京橋～四条駅間が途絶しているとき。
- 3) 大阪市営地下鉄「中央線」・近畿日本鉄道「けいはんな線」（本町～生駒間）及び近畿日本鉄道「奈良線」の 2 交通機関が同時に途絶しているとき。

※事故等による一時的な交通機関運休の場合は、原則通常通り実施します。

解 除 時 間	授 業 の 取 扱
午前 7 時まで解除された場合	通常通り
午前 10 時まで解除された場合	3 限目から通常授業
午前 10 時を過ぎても解除されない場合	3 限目から 5 限目まで休講
午後 3 時まで解除された場合	6 限目から通常授業
午後 3 時を過ぎても解除されない場合	全授業休講

◎自然休講

授業開始後 30 分経過して担当教員が来室しない時は「自然休講」になります。自然休講も補講対象となります。

補 講

休講した授業については、別途補講授業を行います。

補講日については、ポータルシステム [Portal-OSU](#) にてお知らせします。（一部掲示しています。）

レポ-ト

授業担当教員から、レポートを提出するよう指示があった場合は、次の点に注意してください。

- ・ 学科、科目名、教員名、学籍番号、氏名を明記した表紙をつけてください。
- ・ 2 枚以上の場合は、ホッチキス等で綴じてください。
- ・ 教員から指示があった場合はそれに従ってください。
- ・ 授業担当教員から「レポート BOX に投入」する旨の指示があった場合は、指定されたレポート BOX に入れてください。（BOX は 9 号館 1 階および各学部・学科事務室にあります。）
- ・ 提出後の訂正や追加は認められません。
- ・ 提出締切日を過ぎると一切受け付けることができません。
- ・ 定期試験の替りにレポートを課す授業もあります。常に授業に出て情報を得るようにしてください。

(表紙記入例)

学科名	○○○○
科目名	○○○○
担当教員	○○○○先生
レポート課題	○○○○
学籍番号	○○○○○○
氏 名	○○○○

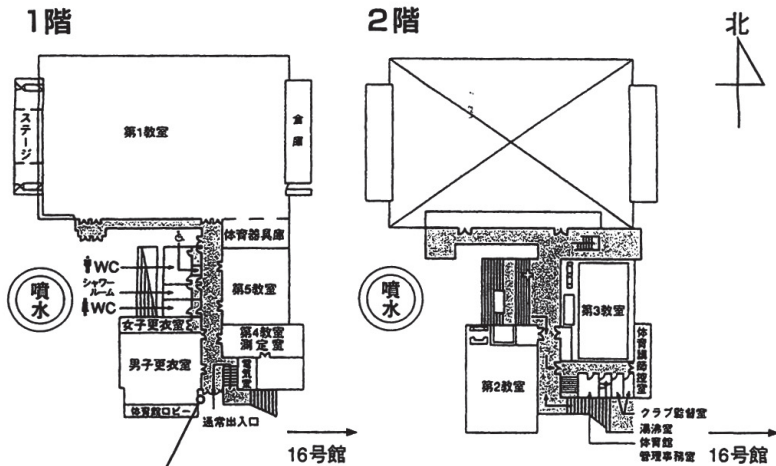
集中講義	<p>各授業科目の講義は通常、前期・後期・通年の授業形態で行われます。しかし、授業科目担当者を学外から招く等の理由で、長期休暇期間等を利用して行う集中講義があります。日程についてはポータルシステムでお知らせします。(一部掲示しています。)</p>
海外研修	<p>言語文化科目分野の単位が修得できる海外研修科目があります。参加希望者は3月下旬に実施される語学研修ガイダンスに参加してください。なお、海外研修に参加する場合は、履修申請期間に必ず登録してください。詳しくは国際交流課にご相談ください。</p>
既修得単位の認定	<p>入学前の既修得単位の認定とは、本学に入学する前に他の大学・短期大学において修得した単位、あるいは高等専門学校・その他文部科学大臣が別に定める教育機関(専修学校等)での学修について、最大60単位まで本学で修得した単位として認める制度です。認定を希望する場合は、下記の内容で取り扱います。受付期間を過ぎてからの申請は認められませんので注意してください。</p> <p>専門学校の場合は、修了時に「専門士」の資格を修得していることが条件です。</p> <p>①受付期間……平成29年4月3日(月)～平成29年4月10日(月) ②受付場所……教務課窓口 ③必要書類……1) 当該学校が発行する成績証明書または単位修得証明書 (各科目の単位数および配当時間数が記載されていること) 2) 当該学校の学生便覧、シラバス等(カリキュラムがわかるもの)</p>
授業の欠席	<p><「欠席届」の手続きの流れ></p> <p>①印鑑、公的な証明書(疾病に関する場合は診断書、親族の冠婚葬祭の場合は参列した証となるもの(葬儀の場合は会葬礼状など)を持って教務課にお越しください。 ②「欠席届」を記入してください。 ③欠席した科目の担当教員に、「欠席届」を提示してください。 ④提示終了後に「欠席届」を教務課に返却してください。</p> <p>※1 印鑑、公的な証明書(疾病に関する場合は診断書、冠婚葬祭の場合は参列した証となるもの、葬儀の場合は会葬礼状など)P18 追試験受験該当者を参照してください。</p> <p>原則的に授業欠席の電話連絡は受け付けていません。 そのため、教務課から担当教員への欠席連絡の取り次ぎは行いません。 後日、教務課にお越しください。ただし、感染症のおそれ、事件・事故等があったときは、教務課または学生生活課まで電話連絡してください。</p>

体育研究室からのお願い

受講時の注意

- ① 出欠席を厳しくとります。身体科学科目が半期科目(前期のみまたは後期のみ)の場合は、半期に3回までの欠席は認めますが、4回以上欠席した場合は不合格となり、単位は認定されません。
- ② 「スポーツ科学」や「運動科学」は、全講義回数数の3/4以上の出席が必要です。
- ③ 「スポーツ科学実習」について
 - ・服装は、運動服であれば高校で使用したもので差し支えありません。
 - ・体育館内の種目を受講する学生は、体育館シューズを使用してください。
 - ・テニスを受講する学生は、テニスシューズを使用してください。
 - ・ロッカー使用の場合には、各自指定番号の鍵を授業時間ごとに借り出し、授業終了後ただちに返却してください。
- ④ 受講に関する指示は、体育館入口の掲示板を見てください。
- ⑤ 「ボウリング」は、ゲーム代等別途費用がかかります。

総合体育館見取図



体育館掲示板はここにあります。
 (教室番号に*と記載されている場合、実施場所はこの掲示板で当日指示されます。
 指示の無い場合は2階体育講師控室で確認して下さい。)

<p>定期試験</p>	<p>授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するために試験が行われます。授業（科目）によっては定期試験期間以外に試験を実施する場合があります。授業期間内に試験が行なわれたり、レポートを提出ししなければならない授業もありますから、常に掲示等も確認してください。</p> <p>また、授業中に課題を与えられる場合などは掲示をしない場合もありますから、気をつけてください。日頃の出席状況、受講態度なども評価の基準になります。さらに、単位認定にあたり、出席を前提としている科目もありますので注意してください。詳細は、Web シラバスにて確認してください。</p>
<p>定期試験を受けるためには</p>	<p>履修申請が必要です。「履修登録確認表」(P13 参照) で登録が確認された授業科目以外の試験を受けることはできません。</p> <p>また、授業料等を納入していなければなりません。</p>

定期試験に関する注意事項

- 授業時間割と異なる曜日・時限で試験を実施する場合があります。
- 他曜日・他時限のクラスと合同で試験を実施する場合があります。
- 受験者数の関係で、教室を分けて試験を実施する場合があります。
- 試験時間割発表後にも実施日・教室等が変更される可能性があります。
- 旧カリキュラム適用の学生で科目の読み替えのある学生は、Web シラバス（授業計画書）参照の上、試験科目・試験日時を確認してください。
- 自由科目や乗り入れ等で他学部他学科の科目を履修している学生は、その科目が本来開講されている学部・学科の試験時間割を確認の上、受験してください。
 - ① 試験場では、学生証を通路側の机の上に置いてください（学生証のない者は受験できません）。
 - ② 学生証を忘れた時は、本館1階パピルスメイトにて「試験用臨時学生証」を発行後、試験会場に入室してください。
 「試験用臨時学生証」は当日のみ有効とし、当日の試験終了後直ちに教務課に返却してください。
 「試験用臨時学生証」の発行手数料は 500 円です。
- 試験開始後 30 分以上遅刻した者は受験できません。
- 試験中に不正行為を行った者には退場を命じ、以下の通り処分します。
 - 注意義務違反を怠った者…当該科目の試験を無効とします。（監督者の指示に従わない者、受験態度が悪い者など。）
 - 不正行為を行った者…当該試験期間中の試験をすべて無効とします。

修学規程

単位認定に係わる試験（以下「試験」という。）を受験しようとする者は、試験場において、次の各号に定める事項（以下「注意義務」という。）を守らなければならない。

- (1) 試験場においては、監督者の指示に従わなければならない。
- (2) 試験開始後 30 分以上遅刻した者は試験場に入ることができない。
- (3) 受験のさいは、学生証を机の上に置かなければならない。学生証を所持しない者は受験することができない。
- (4) 答案用紙には、学籍番号および氏名をペンまたはボールペンで明記し、監督者に学生証との照合を受けなければならない。
- (5) 特に許可されたものを除き、すべて携帯品は、監督者が指定する場所に置かなければならない。
- (6) 配布を受けた答案用紙およびその他の用紙類はすべて、監督者が指定する場所に提出し、試験場外に持ち出してはならない。

修学規程

試験にさいして、次の各号の何れかの行為を行った者は、不正行為者とみなし、学生証および答案を取り上げて退場を命じる。

- (1) 前条の注意義務に抵触する行為
 - (2) 許可されたもの以外を見ること
 - (3) 他人の不正行為を助けること
 - (4) 不正行為を目的とするものを保持すること
 - (5) 不正行為に係わる物的証拠を故意に隠蔽すること
 - (6) その他不正行為とみなされること
- 2 不正行為を行った者には、次の各号に従って処分を行う。
- (1) 前項 1 号の不正行為を行った者は、当該科目の試験を無効とする。
 - (2) 前項 2 号から 6 号の不正行為を行った者は、当該試験期間中の試験を無効とする。
 - (3) 不正行為を繰り返すなど特に悪質な者にたいしては、学則第 48 条に基づいて懲戒処分とする。

<p>追試験</p>	<p>追試験は、病気等で定期試験を受けることができなかった者が、以下のイ)～二)に該当する場合に申し込むことができます。通年科目の中間試験に追試験はありません。追試験の成績は90点満点です。試験時間、試験場での注意、不正行為者の処分等については、定期試験と同様に扱われます。</p>
<p>受験該当者</p>	<p>イ) 病気による公的診断書※1がある者、および就職活動に関する証明※2がある者。 ※1 受診日以外に欠席を要する場合は、その欠席期間も安静を要することが判らなければ、原則として追試験の受験は認められません。 ※2 「就職活動証明書」を事前にキャリアセンターで受け取り、必要事項を記入の上、訪問企業で押印したものを教務課に提出してください。</p> <p>ロ) 試験期間および期間外に次の事項で特別に休んだ場合、保護者および他の証明書がある者。 ・父母、配偶者(それに準ずる者を含む)または子が死亡した時(7日+往復日数) ・祖父母または兄弟姉妹が死亡した時(2日+往復日数) ・1周忌までの法要を行う時、または上記以外の親族が死亡した時(1日+往復日数) ・交通事故で被害者の場合は、事故が発生したその日から追試験を受験できる日まで。</p> <p>ハ) クラブ活動における関西大会以上の公式試合、並びに大会に参加するため予め許可を得た者。(大会期間+往復日数)</p> <p>二) 各時限において、交通機関の延着により受験できなかった者で、30分以上の延着証明(公の証明書に発生年月日、時間帯が明記され、代表者の印のあるものに限る。)を添えて発生した当日に教務課窓口申し出て、交通機関に問い合わせた結果、申請事項と相違ないと認められた者。</p> <p>※その他特別な理由のある者は、別に審議します。</p>
<p>申し込み方法</p>	<p>追試験を受験するためには、「追試験受験願」に必要な事項を記入し、決められた申し込み期間内(別途ポータルシステムに記載します。)に、受験料(1,000円/1科目)を添えて申し込んでください。追試験受験可否については、教授会において審議し決定します。その結果は、ポータルシステムからお知らせ配信で発表します。メール通知設定の登録をしておいてください。</p> <p>ただし、就職試験、交通機関の延着および裁判員としての職務従事のために定期試験を受験できない場合は、受験料は必要ありません。</p> <p>公的理由により通年科目の中間試験を欠席した場合、理由を証明する書類を持って教務課に相談に来てください。中間試験欠席証明を発行します。</p>

成績

正しく履修登録された科目について、所定の試験を受けた結果、成績が「S」「A」「B」「C」に評価された場合に単位が認定されます。

成績評価

評価	S(秀)	A(優)	B(良)	C(可)	D(不可)	*	T(認定)	@
適用(点)	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	注1)参照	注2)参照	履修中
単位	合格				不合格	不合格	認定	

注 1) * (アスタリスク) について

成績評価 (S、A、B、C、D) が受けられずに、未受験または未受験相当は * (アスタリスク) となります。

- 1) 定期試験を受けなかったとき。
- 2) 定期試験は受けたが、授業欠席が多かった。
- 3) 授業欠席が多かった。
- 4) レポート、課題を提出しなかった。
- 5) レポート、課題を提出したが、授業欠席が多かった。
- 6) その他、Webシラバスに明示されている場合。

* (アスタリスク) の基準がWebシラバスに明示されている場合は、その基準を優先します。

◀「Webシラバス」を参照するには、ポータルシステム ③教務システム (履修・シラバス) にアクセスしてください。▶

注 2) T (認定) について


教授会で認められた場合は、60 単位を超えない範囲で本学での単位として認定します。(P15 参照)

- 1) 入学前および入学後における他の大学、短期大学で修得した単位。
- 2) 短期大学・高等専門学校における学修や、その他文部科学大臣が別に定める学修。

成績発表

「履修登録確認表」で登録が確認された科目以外は、単位を修得することができません。
ポータルシステムのお知らせに「成績発表についてのお知らせ」が配信されますので確認してください。(P 8 参照)

証明書自動発行機パピルスメイトで年間 2 通まで成績表を発行することができます。

◀ポータルシステム  P9 ③教務システム (履修・シラバス) にアクセスし、成績表で確認してください。▶

通年科目の中間試験・前期集中講義については、前期成績発表はありません。
成績発表 (交付) 日程は当該年度の学年暦を参照してください。

<p>成績問合せ</p>	<p>発表された成績について調査を依頼する（納得できない）場合には、教務課で所定の様式により手続きをしてください。</p> <p>成績発表開始日から所定期間（約 1 週間）以内であれば問合せすることができます。ただし、卒業予定者については、成績発表開始日より所定期間（約 3 日間）まで問合せに応じます。（詳細日程はポータルシステムよりお知らせします。）</p> <p>なお、問合せの根拠（納得できない）理由は、シラバスの「成績評価基準・方法」欄および「成績評価Dに該当する*の基準」欄を参考にして客観的な事実のみを拠りどころとして記述してください。私情を交えた嘆願的文書は受け付けません。</p> <p>電話・メールによる受付はできません。</p>
<p>平均点 算出方法</p>	<p>S=97、A=85、B=75、C=63</p> $\text{平均点} = \frac{(S \text{ の数} \times 97) + (A \text{ の数} \times 85) + (B \text{ の数} \times 75) + (C \text{ の数} \times 63)}{S \text{ の数} + A \text{ の数} + B \text{ の数} + C \text{ の数}}$

GPA 制度と 修学指導・ 退学勧告	<p>本学では、学生の皆さんの学習意欲向上と、教職員による適切な修学指導支援のため、GPA (Grade Point Average) 制度を設けています。</p> <p>GPA の値が著しく悪化した場合には、学科教員から修学指導を受けることとなり、また場合によっては退学勧告を受けることもあります。</p> <p>学生の皆さんは GPA 制度の趣旨を十分理解し、卒業に向けてより効果的な学習を行ってください。</p>												
GPAとは	<p>GPA とはアメリカなどの大学で多く使用される成績の評価方法で、S・A・B・C・D といった成績評価を GP (Grade Point) と呼ばれる数値に置き換え、それにそれぞれの取得単位数を乗じたものを履修申請単位数で除して算出される1単位あたりの平均値です。仮に、単位を取得することができた科目の成績が良くても、一方で不合格となった科目の数も多ければ GPA は高くなりません。</p> <p>したがって、GPA を高い水準に保つためには、履修登録した科目をひとつひとつ丁寧に学習し、それぞれ高い評価で合格することが必要となります。</p>												
GP	<p>GP は、成績評価に基づき下表のとおりとします。</p> <table border="1" data-bbox="281 549 1005 596"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>S</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D・*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>GP</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価	S	A	B	C	D・*	GP	4	3	2	1	0
成績評価	S	A	B	C	D・*								
GP	4	3	2	1	0								
GPA 計算式	<p>GPA は次の式により算出します。</p> $GPA = \frac{(4 \times S \text{の取得単位数}) + (3 \times A \text{の取得単位数}) + (2 \times B \text{の取得単位数}) + (1 \times C \text{の取得単位数})}{\text{履修申請した総単位数}}$ <p style="text-align: right;">(小数点第 4 位以下切り捨て)</p> <p>なお、GPA の算出には、卒業要件に算入されない教職課程の科目も含め、すべての科目が対象となります。</p> <p>また、GPA は「年度 GPA」(年度ごとの GPA) と「累積 GPA」(入学以後の通算 GPA) の二つに分けられます。</p>												
GPA制度の ねらい	<p>GPA は「4」に近いほど学習状況が良好であることを示します。</p> <p>一方で、GPA が「0」に近ければ、履修登録単位数が過剰であったり、体系的・効率的な履修ができていないなど、学習状況に何らかの問題が生じている可能性があります。そういった問題を適宜発見し、教職員の指導も交えながら、皆さんの今後の学習改善に繋げるために GPA 制度は有効であるといえます。</p>												
修学指導・ 退学勧告	<p>大学は、GPA が著しく低くなった学生に対し、下記の手続きを経て退学勧告を行うことがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次終了時において累積 GPA が 0.500 未満の者には、各学科が指定する教育職員が面談の上、次年度以降に向けた適切な修学指導を行う。 2. 2年次以降の各年度終了時において累積 GPA が 0.500 未満の者には、各学科が指定する教育職員が面談および修学指導を行う。 3. 前項の面談および修学指導を行った教育職員は、その結果を学科主任に報告する。 4. 前項の報告を受けた学科主任は、今後の改善見込みの可否について判断し、改善の見込みがないと判断した場合は、学部長に判断結果を報告する。 5. 前項の報告を受けた学部長は、学科主任と協議を行い、改善の見込みがないと判断した場合は、当該学生への退学勧告について、教授会の議を経て学長に報告する。 6. 前項の報告を受けた学長は、当該学生に対し退学勧告を行う。 <p>ただし、GPA 制度はあくまでも学生の皆さんの学習意欲向上を目的としているため、むやみに退学勧告を行うことはありません。</p> <p>上記に定める学科教員の面談・修学指導により、以後の学習改善に向けた意欲が確認できれば引き続き修学することが可能です。</p> <p>一方で、「面談の呼び出しに応じない」「面談したが学習改善に向けた意欲が見られない」といった場合は、退学勧告の対象となることがありますので注意してください。</p>												

成績表の見方

(ASD010R01)

PAGE: 1 / 1

成績表

○○学部
○○学科 ○○コース

学籍番号 99X999
氏名 サンダイ タロウ
19XX年 10月 10日生

表 (A)

20XX年 4月 1日 入学

科目名	単位	評価	科目名	単位	評価	科目区分	卒業要件単位数	履修単位数	修得単位数
【総合教育科目】 (教養教育科目) 表現力基礎演習 (人文科学)	選択2	B				教養教育	—	—	18
論理学	選択2	*				言語文化 (内 英語)	8以上	8	8
心理学	選択2	B				身体科学	—	—	(4)
社会思想史 (社会科学)	選択2	C				総合教育(小計)	24以上	24	28
日本国憲法	選択2	B				必修	78	71	71
経済学の基礎	選択2	B				選択	14以上 (0~4)	14	20
近代史	選択2	S				(内 自由科目)	92以上	85	(0)
地理学	選択2	A				専門教育(小計)	—	—	91
(学際領域)						合計	124	117	119
外国の社会と文化	選択2	C							
倫理(工業倫理を含む。)	選択2	C							
(言語文化科目)									
(英語)									
英語(Listening&Speaking) 1	選択1	S							
英語(Listening&Speaking) 2	選択1	A							
英語(Reading&Writing) 1	選択1	A							
英語(Reading&Writing) 2	選択1	B							
(初修外国語)									
ドイツ語入門1	選択1	C							
ドイツ語入門2	選択1	C							
フランス語入門1	選択1	C							
中国語入門1	選択1	C							
(身体科学科目)									
スポーツ科学	選択2	B							
【専門教育科目】 (専門基礎科目)									
基礎数学および演習	選択2	A							
基礎物理学	選択2	C							
解析学1	必修2	B							
解析学2	必修2	C							
代数学1	必修2	S							
代数学2	必修2	A							
工業数学	必修2	C							
工業数学演習	必修1	B							
数理学2	必修2	B							
化学	選択2	B							
工業力学1	必修2	C							
材料力学1	必修2	B							
材料力学演習	必修1	B							
材料力学2	選択2	C							
機械力学	選択2	C							
機械図画法	必修2	B							
図形科学	必修2	C							
機械製図	選択2	B							
機械設計学1	必修2	C							
CAO演習	必修2	B							
材料工学1	選択2	C							
流体工学1	必修2	B							
熱工学演習	必修1	B							
熱工学1	必修2	C							
電気工学1	必修2	B							
電気工学2	選択2	C							
省エネルギー演習	必修1	B							
外国語講義	必修2	A							
交通機械基礎実習	必修2	B							
(専門応用科目)									
交通機械実験・実習1	必修2	B							
自動車構造論1	必修2	B							
自動車構造論2	必修2	C							
自動車性能論	必修2	B							
自動車強度論	必修2	B							
自動車技術論	必修2	A							
自動車整備工学	必修2	C							
交通原動機学1	必修2	B							
自動車工学	選択2	C							
ドライボロジ	選択2	C							
福祉機械	選択2	C							
交通機械デザイン論	選択2	C							
自動車工学実習1	必修4	C							
自動車工学実習2	必修4	C							
自動車工学実習3	必修2	C							
交通機械実験・実習2	必修2	B							
(卒業研究)									
セミナー	必修2	A							
— 以下余白 —									

科目区分	卒業要件単位数	履修単位数	修得単位数
教養教育	—	—	18
言語文化 (内 英語)	8以上	8	8
身体科学	—	—	(4)
総合教育(小計)	24以上	24	28
必修	78	71	71
選択	14以上 (0~4)	14	20
(内 自由科目)	92以上	85	91
専門教育(小計)	—	—	(0)
合計	124	117	119

卒業要件外教職科目	修得総単位数
教科に関する科目/教科又は教職に関する科目	0
教職に関する科目	0

20XX年度 GPA	累積 GPA
1.684	1.491

卒業要件の算入対象ではない科目
(教職免許用科目)の集計欄

評価欄：
左寄り：前年度までに単位修得済の科目の評価
右寄り：今年度に履修した科目の評価

単位欄：
科目の属性と単位数
【科目の属性】
必修 … 必修科目
選必 … 選択必修科目
選択 … 選択科目
コア … コース指定必修科目
指必 … 指定選択必修科目

科目名欄：
前年度までに単位修得済の科目および今年度履修した科目

<成績評価>
S(秀)：100~90点 T(認定)：認定
A(優)：89~80点 D(不合格)：59点以下
B(良)：79~70点 * (未受検科目)
C(可)：69~60点

表 (B)

発表時		次年度	
履修年次	卒業資格	履修年次	
4年次	有	卒業	
履修制限(指定先行科目)		発表時	次年度
申請制限単位数	50		

20XX年 9月 19日
大阪産業大学 教務課

成績表の見方

表(A)について

科目区分	①	②	③
	卒業要件単位数	取得卒業要件単位数	取得総単位数
教養教育	—	—	18
言語文化 (内 英語)	8以上 (4以上)	8 —	8 (4)
身体科学	—	—	2
総合教育(小計)	24以上	24	28
必修	78	71	71
選択 (内 自由科目)	14以上 (0~4)	14 —	20 (0)
専門教育(小計)	92以上	85	91
合計	124	117	119

①卒業要件単位数

卒業に必要な単位数

②取得卒業要件単位数

取得している全ての単位のうち卒業要件としてカウントされた単位数

取得卒業要件単位数の要件を充足しているかを判断します。科目区分毎の要件を超えて表示されることはありません。

③取得総単位数

取得している全ての単位数 (卒業要件としてカウントされていない単位数を含む)

④科目区分、卒業要件単位数欄

学部学科が定めた要件区分名を示します。

表(B)について

⑤	⑥	⑦	⑤	次年度
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次	
4年次	有	有	卒業	
⑧	履修制限(指定先行科目)		発表時	次年度
申請制限単位数	50			

⑤履修年次/セメ

2年次/3セメ	3年次/5セメ	4年次/7セメ	卒業	卒1	4留/8セメ	9月卒
2年次に進級	3年次に進級	4年次に進級	卒業見込	卒業確定	卒業証明	9月卒業確定

⑥卒見証発行(3年次/6セメ以上)

有	無	卒業見込証明とは、当該年度に卒業が可能であることを証明するもので、就職活動等に必要です。 【発行条件】 ①既に卒業要件単位数を充足していること。 ②卒業要件単位を充足できる履修申請が完了していること。 ③3年(編入生は1年)以上在学していること。
卒業見込証明書発行可	卒業見込証明書発行不可	

⑦卒研資格(3年次/6セメ以上)

有	無	既有	済	※各学科により資格が異なりますので、チャプター(Chapter)2でご確認ください。
卒業研究履修可	卒業研究履修不可	卒業研究履修可(前年度より)	卒業研究単位修得済み	

⑧履修制限

経営学科	S1	来年度「研究ゼミナール2」を履修する事ができません。
	S2	来年度「卒業論文ゼミナール」を履修する事ができません。
商学科	S1	「専門演習B」を履修する事ができません。
	S2	来年度「卒業研究」を履修する事ができません。
経済学部	S1	来年度「演習2」を履修する事ができません。
	S2	来年度「演習3」を履修する事ができません。
	S3	来年度「演習4」を履修する事ができません。
	Z	2年次前期終了時までには修得した卒業要件単位数が20単位未満の場合は、学科配属が決定されません。 (従って、3年次からの「演習1」が履修できません。)

学部変更、 転科について

本学の学生が、現在の学部・学科から他学部・他学科へ移籍することです。募集の詳細は、1月初旬に教務課で配布予定の「転科・学部変更試験要項」で確認してください。(検定料：15,000円)
詳細については、教務課にお問い合わせください。

学籍異動

学籍異動と授業料納付期限は密接に関係しています。内容をよく確認してください。

休学

病気その他の理由で休学しようとするときは、「休学願」(教務課設置もしくは大阪産業大学HPよりトップ>キャンパスライフ>教務課>証明書・各種届出>在学生向けからダウンロード)を教務課に提出し、学長の許可を受けなければなりません。病気、ケガによる休学の場合は、医師の診断書が必要です。

授業料納入期限内に休学の願い出を行った場合は、休学期間中の授業料は徴収しません。授業料納入期限を過ぎてから休学を願い出る場合は、その学期の授業料を全額納入しなければなりません。

なお、一度に願い出ができる休学期間は、前期(4月1日から9月20日)、後期(9月21日から3月31日)もしくは通年(4月1日から3月31日)となっています。引き続き休学を願い出る場合は、あらためて休学願を提出し、許可を得なければなりません。なお、休学期間は通算して3年を超えることはできません。

	通年休学(1年間)	前期休学	後期休学
休学願提出期限※	4月20日	4月20日	10月15日
休学期間	4月1日～ 3月31日	4月1日～ 9月20日	9月21日～ 3月31日

※休学願の提出期限は、授業料等の納入期限と同日です。ただし、納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限としますので、休学願の提出期限も同様となります。

なお、学科によっては半期の休学でも卒業は1年遅れる場合もあります。詳しくは教務課にご相談ください。

提出する書類	休学願
--------	-----

書類記載の際、印鑑が必要です。

継続して休学する時・・・・・・・・休学願

※継続する場合は単年度ごとに手続きが必要です。

手続きがない場合は継続されません。

復学

休学期間を満了すると、翌学期から自動的に復学となりますので、履修申請等、所定の期間内に行うようにしてください。

なお、休学期間中に復学する場合には、「復学願」(教務課設置もしくは大阪産業大学HPよりトップ>キャンパスライフ>教務課>証明書・各種届出>在学生向けからダウンロード)を教務課に提出し、当該学期の授業料(等)を全額納入しなければなりません。病気、ケガのため休学したときは、修学に差し支えない旨の医師の診断書が必要です。

提出する書類	復学願
--------	-----

書類記載の際、印鑑が必要です。

<p>退 学</p>	<p>病気その他の理由で退学しようとするときは、「退学願」（教務課設置もしくは大阪産業大学HPよりトップ>キャンパスライフ>教務課>証明書・各種届出>在学生向けからダウンロード）と学生証（返還のため）を教務課に提出し、学長の許可を受けなければなりません。</p> <table border="1" data-bbox="281 268 917 389"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">前 期</td> <td style="text-align: center;">後 期</td> </tr> <tr> <td>退学願 提出期限</td> <td style="text-align: center;">4月20日</td> <td style="text-align: center;">10月15日</td> </tr> </table> <p>※退学願の提出期限は、授業料等の納入期限と同日です。ただし、納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限としますので、退学願の提出期限も同様となります。 提出期限を過ぎると除籍となります。詳しくは教務課にご相談ください。</p> <table border="1" data-bbox="281 520 706 552"> <tr> <td>提出する書類</td> <td>退学願</td> </tr> </table> <p>書類記載の際、印鑑、学生証が必要です。</p>		前 期	後 期	退学願 提出期限	4月20日	10月15日	提出する書類	退学願
	前 期	後 期							
退学願 提出期限	4月20日	10月15日							
提出する書類	退学願								
<p>除 籍</p>	<p>学生が、次の各号のいずれかに該当するときは、除籍となります。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業料（等）について、納入期限を超えても納めないとき (2) 長期に渡って欠席し、または病気その他の理由で成業の見込みのないと認めたと き (3) 学部の同一学科において、休学期間を除き、在学期間が修業年限（学部は4年）の2倍を超えたとき ※ 経済学部においては、学科配属前の期間を含みます。 (4) 死亡したとき 								
<p>再 入 学</p>	<p>除籍または退学した学生が再入学を希望するときは、再入学試験に合格し、合格手続期間内に再入学金ならびに再入学する学期の授業料（等）を納入しなければなりません。再入学時の授業料（等）については、延納申請ができませんのでご注意ください。 なお、再入学試験の受験資格は、出願時に退学後3年を超えない者、除籍取消期間満了後3年を超えない者となっています。 ※特別な理由がある者については、3年を超えても再入学の願出を認めることがあります。また、再入学の試験その他に関しては、教務課にご相談ください。</p>								

授業料(等)の納付について

授業料、教育環境充実費（以下「授業料（等）」という。）は前期と後期に分け、それぞれ年額の2分の1を納入していただきます。

また、諸会費（学会費・自治会費・校友会費・後援会費・学生健康保険組合費）は入学時から8回（編入生は4回に分けて、授業料（等）の納入時に併せて納入していただきます。

なお、1年分をその年の最初の納入期限までに一括して納入することができます。

詳しくは、本館1階経理課窓口にお問い合わせください。

一旦納入された学費は、返還いたしません。

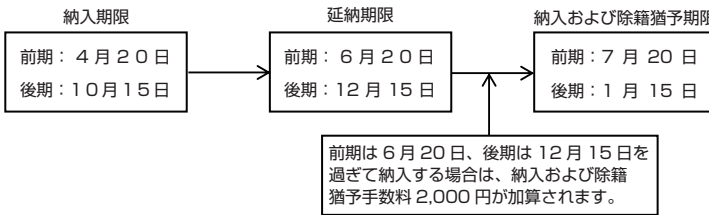
納入期限

	前 期	後 期
授業料（等）【納入期限】	4月20日	10月15日

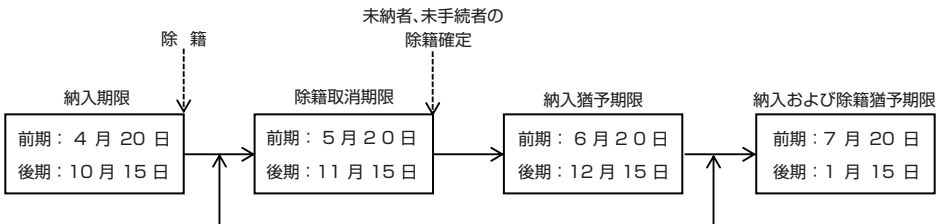
（注）納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限とします。

※休学願・退学願の手続き期限も同様です。

納入期限までに延納申請（「授業料(等)延納願」「授業料(等)納入および除籍猶予願」の提出）を行った場合



納入期限までに「授業料(等)を納めなかった」「延納申請を行わなかった」場合



納入期限の翌日から1ヵ月以内に限り、下記のいずれかの手続きにより除籍を取り消すことができます。ただし、いずれの手続きにも除籍取消料5,000円が加算されます。

・授業料(等)を納める場合
授業料(等)を納入するとともに「除籍取消願」を提出

・授業料(等)の納入猶予を願い出る場合
「除籍取消願」
「授業料(等)納入猶予願」
「授業料(等)納入および除籍猶予願」を提出

前期は6月20日、後期は12月15日を過ぎて納入する場合は、納入および除籍猶予手数料2,000円が加算されます。

振込依頼書

◎納入方法

本学所定の授業料等振込依頼書による銀行振込とします。

◎金額

納入方法・金額については、授業料等振込依頼書に記載しています。

※金額については、大阪産業大学学則、別表第3に記載
(在学年数が4年を超える学生および2年を超える編入生についても記載)

◎送付時期

前期3月下旬・後期9月上旬に保護者宅へ送付します。

※送付されない場合、紛失した場合は1階経理課(本館)へお問い合わせください。

Chapter

02

17K
入学生

17K
入学生

○都市創造工学科の教育理念	030
○都市創造工学科の学習・教育到達目標	031
01. 履修申請	035
02. 成績表の見方	039
03. 「卒業研究」について	040
04. 卒業要件単位数（外国人留学生も共通）	041
05. 卒業見込証明書と卒業 / 履修要件	042
06. 資格取得	055
07. 飛び級制度	057
08. 大学院工学研究科授業科目早期履修制度	057

都市創造工学科の教育理念

- I. 人々が平和で幸福な生活をおくることができるように、自然と人間との健全かつ永続的な調和と共生のもとでの都市創造について、幅広く考えることができる技術者を養成する。
- II. 「偉大なる平凡人たれ」の建学精神のもと、自己中心の功利的な考え方を捨て人間社会に貢献できることを基本とし、都市創造工学が社会に与える影響力の重要性と技術者の社会的責任とを理解・自覚し、かつ良識と高い倫理感をもつ技術者を養成する。
- III. 大都市圏の中核である大阪に立地する本学の特性を踏まえ、地域の発展を目指し、都市基盤の構築・再生、都市環境の創生・保全、自然災害に強い都市構造の形成及び循環型社会の構成に寄与する能力をもつとともに、国際的な視野をもって活動できる技術者を養成する。
- IV. 社会全体の変化、都市創造・再生や環境に対する社会の考え方に柔軟に対応しつつ、自主的に課題を探求し、周りにも働きかけ、自らも解決策を見出し実践することを念頭に置き、実務的な事柄を着実に遂行できる技術者を養成する。

都市創造工学科（総合コース）の学習・教育到達目標

(A) 「多面的学習能力」

人類の豊かな生活と幸福を求めて活動することを旨として、地球的視点から考えることができる多面的な学習能力を身につける。

(A-1) 社会における人間の役割と活動のあり方を価値観の異なる他者の視点も含めた広い立場から理解し、説明できる。

(A-2) 地球環境、資源・エネルギー循環の観点から都市創造工学について理解し、説明できる。

(B) 「技術者倫理」

技術が自然・環境へ与える影響と社会的責任とを理解・自覚し、技術者倫理の重要性を説明できる。

(B-1) 自然との共生の重要性、土木工事が自然・環境へ与える影響及び土木技術者への社会からの要請について理解し、技術者としてのモラルを説明できる。

(B-2) 技術者がかつべき高い倫理意識を身につけ、実践の場で自律的かつ適正な行動をとるための判断ができる。

(C) 「総合基礎学力」

自然科学・情報処理の基礎を習得するとともに、人文・社会科学の基礎についても深く理解する。

(C-1) ①数学に関する基礎学力、②物理学を主とする自然科学の基礎学力、及び③コンピューターや情報処理技術に関する知識と活用方法を習得する。

(C-2) 社会、歴史、文化、科学的なものの考え方、価値観など人文・社会科学に関する幅広い知識と考え方を習得する。

(D) 「専門基礎学力」

構造力学、建設材料学、地盤工学、水工水理学、土木計画学・交通システム工学、環境工学の各分野の専門基礎学力を身につける。

(D-1) 構造力学関連の専門基礎学力を身につける。

(D-2) 建設材料学関連の専門基礎学力を身につける。

(D-3) 地盤工学関連の専門基礎学力を身につける。

(D-4) 水工水理学関連の専門基礎学力を身につける。

(D-5) 土木計画学・交通システム工学関連の専門基礎学力を身につける。

(D-6) 環境工学関連の専門基礎学力を身につける。

(E) 「専門応用学力」

実験、実習並びに演習等を通じて専門応用学力を身につける。

(E-1) 実験・実習技術を一連の作業を通じて習得するとともに計画・遂行、結果の解析・考察を自ら行い、応用的問題を解決することができる。

(E-2) 土木工学が扱う基本的な計算・設計に関する演習課題に取組み、問題を分析・解決する能力を養い、実際の問題に応用することができる。

(F) 「デザイン能力」

土木工学分野での諸々の問題に取組み、実現可能な解を見つけ出ししていくためのデザイン能力を習得する。

(F-1) 社会のニーズに合った課題の設定、計画、設計・施工、新しいシステムの提案、設計など一連の作業を全体構想の中で取組み、成果を正しく解析し表現できる。

(F-2) 解が1つでない課題について、総合基礎学力、専門基礎学力、専門応用学力と応用技術をもって解を見出すことができる。

(G) 「コミュニケーション能力」

論理的かつ客観的な記述、プレゼンテーション及びディベートを行うことができる。

(G-1) 情報発信活動を積極的かつ円滑に行うための日本語による記述、プレゼンテーション及びディ

ベートを行うことができる。

(G-2) 英語を主とする外国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる。

(H)「自主的・継続的学習能力」

社会の変化に柔軟に対応し、自主的、継続的に学習できる。

(H-1) 都市創造に関する最新の情報や具体的な実施事例を学び、自発的学習の習慣を身に付ける。

(H-2) 社会の変化に対応して新たな知識や情報を自ら入手し、自主的、継続的に学習できる能力を習得する。

(I)「計画的学習能力」

与えられた制約のもと、課題に対して自立して計画的に取組み、期限内に成果をまとめることができる。

(I-1) 調査、計画、実行、解析、考察、結論の各プロセスに対して、計画的に進め、期限内に成果をまとめることができる。

(I-2) 与えられた課題をグループ作業を通じて計画的に遂行し、協調性とリーダーシップ力を養う。

(J)「地域実践能力」

大阪を中心とする関西地域を例として地域の都市基盤の再生・創造技術について学び説明できる。

(J-1) 地域の地盤、構築物、交通、環境などに関わる歴史的、地域的特性を理解できる。

(J-2) 地域の都市創造技術や建設工事の実例について学び、説明できる。

以上

都市創造工学科（構造コース）の学習・教育到達目標

(a)「多面的学習能力」

人類の豊かな生活と幸福を求めて活動することを旨として、地球的視点から考えることができる多面的な学習能力を身につける。

(b)「技術者倫理」

技術が自然・環境へ与える影響と社会的責任とを理解・自覚し、技術者倫理の重要性を説明できる。

(c)「総合基礎学力」

自然科学・情報処理の基礎を習得するとともに、人文・社会科学の基礎についても深く理解する。

(d)「専門基礎学力」

構造力学、土質力学、建設材料を中心とする専門基礎学力を修得し、社会基盤の礎となる構造物や建物の設計・施工にかかわる実務に応用できる能力を身につける。

(e)「専門応用学力」

構造物や建物の設計・施工にかかわる実務に必要な実習並びに演習等を通じて専門応用能力を身につける。

(f)「デザイン能力」

持続可能な循環型社会を築くにあたっての諸々の問題に取組み、実現可能な解を見つけ出していくためのデザイン能力を習得する。

(g)「コミュニケーション能力」

論理的かつ客観的な記述、プレゼンテーション及びディベートを行うことができる。

(h) 「自主的・計画的・継続的学習能力」

構造物や建物の設計・施工にかかわる最新の情報や具体的な実施事例を学び、それをもとに設定した課題に対して自主的、計画的、継続的に取り組み、期限内に成果をまとめることができる。

(i) 「地域実践能力」

大阪を中心とする関西地域の実情に応じた都市基盤の再生・創造技術について学び説明できる。

以上

都市創造工学科（自然エネルギーコース）の学習・教育到達目標

(a) 「多面的学習能力」

人類の豊かな生活と幸福を求めて活動することを旨として、地球的視点から考えることができる多面的な学習能力を身につける。

(b) 「技術者倫理」

技術が自然・環境へ与える影響と社会的責任とを理解・自覚し、技術者倫理の重要性を説明できる。

(c) 「総合基礎学力」

自然科学・情報処理の基礎を習得するとともに、人文・社会科学の基礎についても深く理解する。

(d) 「専門基礎学力」

構造力学、土質力学、水理学などの都市創造工学分野の専門基礎学力を修得するとともに、自然エネルギーに関する電子情報通信工学科自然エネルギーコースとの共通科目についても学習し、自然現象からエネルギーを取り出す実務に応用できる能力を身につける。

(e) 「専門応用学力」

自然現象からエネルギーを取り出す実務に必要な実習並びに演習等を通じて専門応用能力を身につける。

(f) 「デザイン能力」

自然現象からエネルギーを取り出す実務に関する問題に取組み、実現可能な解を見つけ出していくためのデザイン能力を習得する。

(g) 「コミュニケーション能力」

論理的かつ客観的な記述、プレゼンテーション及びディベートを行うことができる。

(h) 「自主的・計画的・継続的学習能力」

自然現象からエネルギーを取り出す実務に関する最新の情報や具体的な実施事例を学び、それをもとに設定した課題に対して自主的、計画的、継続的に取り組み、期限内に成果をまとめることができる。

(i) 「地域実践能力」

大阪を中心とする関西地域の実情に応じた都市基盤の再生・創造技術について学び説明できる。

以上

【履修指導】

都市創造工学科では、学生が『学習・教育到達目標』を達成するために、都市創造工学科のカリキュラム履修モデル表を示し、卒業までに総合教養科目と専門教育科目をバランス良く履修し、単位修得できるよう履修指導します。

【科目履修および単位修得についての留意事項】

- ①単位の修得にあたっては、講義科目は2/3以上、実験・実習・演習科目は3/4以上の出席を前提条件としています。
- ②卒業研究は、3回生で修了時における修得単位数が所定の単位に満たない場合には受講できません。卒業研究は必修科目ですので、充分注意してください。
- ③都市創造工学科では、学科の学習・教育到達目標に基づき修了要件の科目を指定し、学習保証時間を定めております。科目履修は学科教員の指導のもとに履修申請をしてください。
- ④建設材料実験、土質実験、水理実験、衛生実験は3年次で必ず履修し単位を修得してください。
- ⑤都市創造工学科のカリキュラム履修モデル表を参照してください。
- ⑥学習保証時間の確保のために、前期・後期ともに最低15回の授業を行います。
- ⑦基礎科目(数学、物理学、化学)を履修する学生は1年次前期に単位を修得すること。未修得の場合4年間で卒業できないこともあります。
- ⑧卒業研究の論文着手条件として、中間発表を行うこと。
- ⑨卒業研究は、学習保証時間を満した学生について、研究室における日常の学習・研究・ゼミナール活動、および論文構成、プレゼンテーション能力をもって評価する。

01. 履修申請

- ・「履修申請」とは、自分が受けたい授業科目を申込みことです。
- ・「履修申請」は、本年度の学習方針を決定するだけでなく、次年度以降の履修にも影響しますので、履修制限等をよく読んで上で、自分の時間割の計画を立てて申請してください。
- ・大学では必修科目等を除いて、一定の枠の中から受けたい科目を選択できるようになっています。
- ・申請期限までに所定の手続きを行わなかったり、間違ったりすると、授業に出席して、試験を受けても単位が認められませんので、慎重に行ってください。
- ・申請の手順については別に配布するWeb履修申請ガイドブックをご覧ください。

(1) 履修計画における注意点

- ①履修する科目を選ぶために、事前に「Webシラバス」をよく読んでください。
- ②各時間帯に開講されている授業科目の中から自分が受けたい科目を選び、選んだ科目を各自で履修申請してください。学生1人1人の時間割の内容は、同じ学部・学科であっても違ったものになります。
- ③同じ学部・学科でも、コースによって選択すべき科目が異なります。各コースの履修要件、卒業要件をよく読んで履修計画を立ててください。
- ④卒業資格最低単位数(卒業要件単位数)を充足できるよう重点をおいてください。
- ⑤申請する前に、学籍番号などによって指定されているクラス等を確認してください。
- ⑥各ガイダンスには必ず参加してください。
- ⑦既に単位認定を受けた科目を、再度履修することはできません。

(2) 専門教育科目

1年次から各年次ごとに実験、実習、演習が開講されています。これらの科目は、2～3時限連続で開講されるものもあります。配当年次で修得できないと、次年度の必修科目と重複する場合がありますので注意してください。

(3) 手続き方法

①履修計画を立てる

配付資料に基づき履修計画を立て、Web履修申請ガイドブック巻末にある「時間割下書き用紙」に記入します。また、履修したい講義がクラス登録科目である場合には、同じく巻末にある「クラス登録応募下書き用紙」に記入します。講義科目の中には、学籍番号や学年により履修が制限されているもの、履修する講義が予め指定されているもの、抽選により履修者を決定するもの、プレイスメントテストの結果により履修指示が為されるもの等、さまざまなタイプがあります。これらの情報は、講義時間割の備考欄等に記載されています。

②登録手続き（3つの期間（順序）に分けて行う）

a. クラス登録科目応募

抽選により履修者を決定するタイプの科目は、履修申請に先立ち応募受付を行い、抽選処理を行います。抽選の結果、当選した場合に限り履修することができます。なお、当選した講義（クラス）は履修を取り消すことができません。詳細は、巻末の「クラス登録応募下書き用紙」をご覧ください。

b. 本申請

履修計画（下書きした時間割）に基づいて、コンピュータを操作し講義を登録してください。申請画面を開くと履修可能な講義が表示されています。（内容は学生ごとに異なります。）同時に、抽選により受講を許可された講義と既決履修講義が表示されています。これらの講義は、取り消すことができません。なお、期間内なら何度でも登録内容を変更することができます。登録が完了したら内容を印刷し、保管しておいてください。

c. 修正

登録した講義を修正（追加、削除）することができます。但し、抽選により履修が決定した講義、既決履修講義は取消できません。修正が完了したら、必ず登録内容を印刷してください。

【クラス登録の要領について】

- ・講義時間割の科目名左側に「●」「○」「◎」印がある講義の履修を希望する場合は、本申請に先立ちクラス登録が必要です。
- ・クラス登録は、応募受付⇒抽選⇒発表（本申請時には、当選した科目が画面に自動表示されています。）の順で行われます。
- ・当選した講義はキャンセルすることができません。また、はずれた方は、本申請期間または修正期間に残席がある場合に限り先着順で登録できます。

③言語文化科目

- ・担当教員は、後日掲示でお知らせします。決定した担当教員のクラスで履修申請をしてください。
- ・TOEICクラスの受講は、事前に実施した学力テストの基準に達した学生に限ります。
- ・第1希望にもれた場合は、同一曜日・時限の別のクラスに割当てられることがあります。
- ・新入生の英語については、プレイスメントテストの結果発表に従って履修申請してください。履修を希望しない場合は、予め教務課に申し出てください。

④身体科学科目

- ・再履修者は、再クラスでの登録となります。
- ・リハビリコースクラスは、怪我などで運動に制限がある学生が対象となります。

(4) 自由科目

他学部(自分の所属する学部以外)および他学科(自分の所属する学科以外)の専門教育科目(人間環境学部は展開科目)を、卒業までに30単位まで履修することができます。そのうち4単位までを、専門教育科目の選択科目として、卒業要件単位に算入することができます。(これを「自由科目」と称します。)ただし、履修の認められない科目がありますので下表で確認してください。

自由科目を履修したい人は、Webシラバスを熟読のうえ選択してください。

自由科目は、Web履修申請画面で確認できる(表示されている)科目から選択してください。

都市創造工学科

学部名	学科名	卒業要件に認められる単位	自由科目として扱わない科目
国際	国際	4 単位	製図、演習、実験、実習、 外国書購読、卒業研究 ※その他各学科の事情等により除外する科目
スポーツ健康	スポーツ健康		
経営	経営、商		
経済	経済、国際経済		
デザイン工	建築・環境デザイン、環境理工		
—	機械工、交通機械工、 電子情報通信工		

(5) 履修制限

都市創造工学科の履修には次のような制限がありますので、注意してください。

17K学生に適用	
1年間に履修できる単位数	最大48単位（教職に関する専門教育科目を除く）
学年による科目の制限	1年次:1年次配当科目から選択できます。 2年次:1、2年次の配当科目から選択できます。 3年次:1、2、3年次の配当科目から選択できます。 4年次:すべての開講科目から選択できます。
専門教育科目	工学基礎・情報処理科目 (1)「基礎数学および演習」 入学時のプレースメントテストの結果、「基礎数学および演習」を履修し、単位未修得の学生は後期再クラスを受講できます。 (2)「基礎物理学および演習」 入学時のプレースメントテストの結果、「基礎物理学および演習」を履修し、単位未修得の学生は後期再クラスを受講できます。 (3)「基礎化学および演習」 入学時のプレースメントテストの結果、「基礎化学および演習」を履修し、単位未修得の学生は後期再クラスを受講できます。

プレースメントテストの点数が基準に満たない学生には、「基礎数学および演習」・「基礎物理学および演習」・「基礎化学および演習」を1年次前期に履修することを義務づけています（編入生除く）。いずれも都市創造工学科の科目を学ぶにあたって基礎となる重要な科目です。なお、単位未修得の場合には1年次後期開講の再履修クラスで受講し単位修得すること。単位修得ができない場合には4年間での卒業が困難となる場合がありますので留意してください。また、基礎科目（数学、物理学、化学）の修得には、「学習支援センター」を大いに利用し基礎学力のアップに努めてください。

総合教育科目	教養教育科目	(1)留学生は、「日本事情1」、「日本事情2」、「日本の社会と文化1」、「日本の社会と文化2」の4科目8単位を必修とします。
	言語文化科目	(1)卒業要件単位は、8単位以上（うち英語の卒業要件単位を4単位以上）とします。（英語のみも可）（留学生除く） (2)英語は入学初年度に限り、プレースメントテストの結果により習熟度別クラスに分けます。 (3)初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）を履修する場合は、必ず「入門1」から履修してください。 (4)留学生は ①母語を履修することはできません。 ②日本語8単位を必修とします。
	その他	既に単位認定を受けた科目を再度履修することはできません。

実践教育科目	(1)卒業要件単位は、総合コース、構造コースは必修5単位、指定選択必修3単位以上を含む8単位以上、自然エネルギーコースは必修3単位、指定選択必修5単位以上を含む8単位以上とし、修得は次によります。 ①「都市創造入門セミナー」、「学習リテラシー」、「コンピュータリテラシー」、「フィールドワーク」、「日本語とコミュニケーション1」、「日本語とコミュニケーション2」は1年次全員履修とします。 ②「日本語とコミュニケーション1」、「日本語とコミュニケーション2」から1単位以上修得してください。（留学生は随意選択科目）
--------	---

02. 成績表の見方

- ・発表される「成績表」は、当該年度の前期末または学年末までの成績です。
- ・単位左側の文字の「必」は必修科目、「選必」は選択必修科目、「選」は選択科目を表わします。
- ・成績欄右寄りの評価は「今年度の成績」、中央の評価は「昨年度までの成績」を表わします。
- ・評価・認定は、「S」「A」「B」「C」「D」「T」で判定します。

修得単位数欄

卒業要件単位数	卒業に必要な単位数
修得卒業要件単位数	現在修得している全ての単位のうち卒業要件としてカウントされた単位数
修得総単位数	現在修得している全ての単位数

進級・卒業判定欄

1年次	2年次	3年次	4年次	卒業	4留
1年	2年	3年	4年	卒業できる	卒業延期

来年度欄 (3年生以上)

卒見証発行	有	無	
	卒業見込証明書発行可	卒業見込証明書発行不可	
卒研資格	有	無	済
	卒業研究履修資格有	卒業研究履修資格無	卒業研究修得済

※卒業研究の有資格者に卒業見込証明書を発行します。

・卒業研究履修資格欄 (3年生以上)

学年末に発表する成績表には、次年度の「卒業研究」履修の可否が表示されます。

03. 「卒業研究」について

(1) 「卒業研究」を履修するには？

- ・卒業するためには、「卒業研究」(4年次配当科目)を修得しなければなりません。
- ・「卒業研究」を履修するためには、3年次修了までに履修資格を得ることが必要です。
- ・「卒業研究」の履修について質問や相談がある場合は、Web履修申請する前に教務課で相談してください。
- ・卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課で相談してください。

(2) 履修資格

「卒業研究」を履修するためには、3年次修了時において次の3つの条件を満たさなければなりません。

- ①卒業要件単位数(124単位)のうち、94単位以上修得している。
- ②総合教育科目の卒業要件20単位上修得している。
- ③専門必修科目の実験、実習および演習の未修得単位が2単位以内である。

—参考—(「卒業研究」履修資格を得るために必要な科目)

総合コース		構造コース	
科目名	単位	科目名	単位
フィールドワーク	2	フィールドワーク	2
物理学実験	2	測量学実習	2
測量学実習	2	建設材料実験	1
建設材料実験	1	土質実験	1
土質実験	1	都市創造デザイン	1
水理実験	1		
衛生実験	1		
都市創造デザイン	1		
自然エネルギーコース			
		科目名	単位
		測量学実習	2
		自然エネルギーデザイン1	1
		自然エネルギーデザイン2	1
		自然エネルギーデザイン3	1
		物理学実験	} 2
		化学実験	

04. 卒業要件単位数(外国人留学生も共通)

卒業するためには、以下の2つの条件を満たさなければなりません。

①4年間(編入生は2年間)以上在学

休学期間は在学年数に含まれません。したがって、半期でも休学すると4年(編入生は2年)で卒業することができません。

②学科で定められた卒業要件単位124単位以上(編入生は別途定める)を修得

カリキュラム上、区分ごとに卒業要件に必要な単位数が異なります。履修の仕方によっては単位を修得しても卒業要件単位に入らない場合がありますので、注意してください。

卒業要件単位 124単位以上

実践教育科目		8単位以上		20 単 位 以 上	124 単 位 以 上	学 工 (工 学)	
総 合 教 育 科 目	教 養 教 育 科 目	教養入門ゼミ	指定選択必修科目 の中から6科目以上				12単位 以上
		人文科学					
		社会科学					
		自然科学					
		学際領域					
	(日本事情1・日本事情2) (日本の社会と文化1・日本の社会と文化2)		(留学生4科目)				
	言 語 文 化 科 目	英 語 (4単位以上)	指定選択必修科目 の中から8科目以上				8単位 以上
		初修外国語					
		日 本 語 (留学生科目)					
身 体 科 学 科 目							
専門教育科目	各コースで指定する必修科目、指定選択必修科目の 単位を合わせて修得		88単位以上				
4 年 以 上 在 学							

注) 初修外国語は、ドイツ語・フランス語・中語語のうち1言語のみとする。

注) 留学生は、総合コースのみ英語4単位以上。

単位修得にあたっての留意事項

- ①単位の修得にあたっては、講義科目は2/3以上、実験・実習・演習科目は3/4以上の出席を最低条件としています。
- ②都市創造工学科では、学科の学習・教育到達目標に基づき修了要件の科目を指定し、学習保証時間を定めております。
- ③科目履修は学科教員の指導のもとに履修申請をすること。
- ④学習保証時間の確保のために、前期・後期ともに最低15回の授業を行います。
- ⑤15回を確保するため、学年暦にかかわらず補講を行います。
- ⑥留学生は、教養教育科目分野の日本文化および言語文化科目分野の日本語を必修とする。ただし、「日本語とコミュニケーション1・2」については、随意選択科目とする。
- ⑦基礎科目を履修する学生は1年次前期に単位を修得すること。未修得の場合4年間で卒業できないこともあります。

05. 卒業見込証明書と卒業／履修要件

(1) 「卒業研究」と「卒業見込証明書」

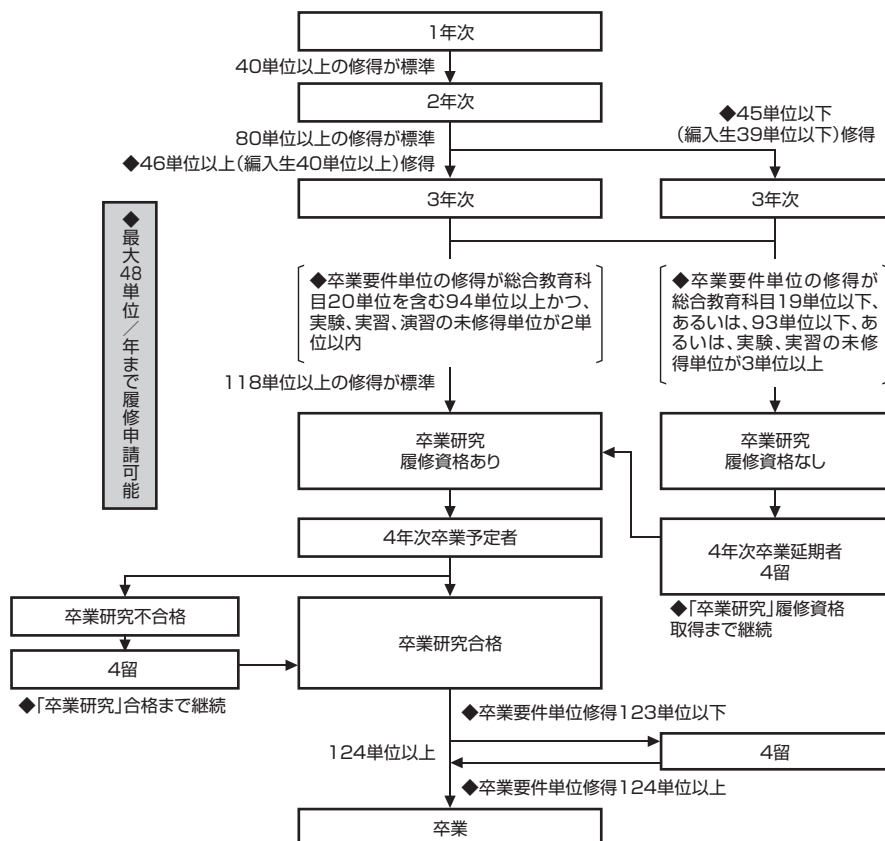
「卒業研究」の履修資格を得た学生を、卒業予定者と呼び、4年次になった4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機(本館1階、クリスタルテラス、梅田サテライト)を利用してください。

(2) 進級の条件

修得単位数に関する履修制限はありませんので、4年次まで進級は可能です。しかし、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、4年間では卒業できなくなります。また、進級するためには、1年を通じて在学していなければなりません。

なお、1年間で最大48単位の履修制限がありますので、計画的に修学してください。



※卒業延期者においては、前期(半期)科目で卒業要件単位を修得した場合に限り、9月期卒業が可能となります。

(3) 都市創造工学科の学習・教育到達目標のための卒業までの修了要件 (実践教育科目)

○必修科目 □指定選択必修科目

区分	科目名称	開講 年 期	単 位	・ 構 造	ル 自 然 工 学	学習・教育到達目標の 修了要件科目数	備考	
実 践 教 育 科 目	都市創造入門セミナー	1前	1	○	○	(コース共通) 各コース必修科目と 「日本語とコミュニケーション1」・ 「日本語とコミュニケーション2」 から1科目以上を含む7科目以上	全員履修	
	学 習 リ テ ラ シ ー	1前	1	□	□		全員履修	
	コンピュータリテラシー	1前	1	○	○		全員履修	
	フ ィ ー ル ド ワ ー ク	1後	2	○	□		全員履修	
	日本語とコミュニケーション1	1前	1	□	□		全員履修	
	日本語とコミュニケーション2	1後	1	□	□		全員履修	
	キャリアデザイン1	2後	1	□	□		(集中)	
	キャリアデザイン2	3前	1	□	□			
	キャリアデザイン3	3後	1	○	○			
	イ ン タ ー ン シ ッ プ	3集	2	□	□			(集中)
	実 践 特 別 科 目	3後	2					単位認定科目
大阪産業大学と社会	1前	1	□	□				

(1) 1年間の履修制限 48単位

(2) 卒業要件単位には必修科目(○印)、指定選択科目(□印)のみ算入される。

(3) 3年次終了時点で総合教育科目20単位を修得していない場合は卒業研究に着手できない。

(4) 3年次終了時点で卒業要件93単位以下は卒業研究に着手できない。

(総合教育科目:教養教育科目／身体科学科目)

○必修科目 □指定選択必修科目 ●留学生のみ必修科目

区分	科目名称	開講 年 期	単 位	構 造	総 合	ル ギ ー	自 然 科 学	学習・教育到達目標の 修了要件科目数	備考
総合 教育 科目	教 養 入 門 ゼ ミ	1前	2						
	人文科学	文 学	1後	2	□		□		
		哲 学	1後	2			□		
		論 理 学	1後	2			□		
		心 理 学	1前	2	□		□		
		社 会 思 想 史	1後	2			□		
		日 本 事 情 1	1前	2	●		●		留学生対象 科目(必修)
		日 本 事 情 2	1後	2	●		●		
	社会科学	日 本 国 憲 法	1前	2	□		□		
		現 代 の 政 治	1後	2	□		□		
		経 済 学 の 基 礎	1後	2	□		□	(コース共通)	
		近 代 史	1後	2			□	「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・ 「倫理学」の中から1科目以上とし、	
		地 理 学	1前	2	□		□	他の指定選択必修科目(□)と合わ せて6科目以上	留学生対象 科目(必修)
		日 本 の 社 会 と 文 化 1	1前	2	●		●		
		日 本 の 社 会 と 文 化 2	1後	2	●		●		
	自然科学	物 質 科 学	1後	2	□		□		
		宇 宙 科 学	1前	2			□		
		環 境 科 学	1後	2	□		□		
		生 命 科 学	1前	2			□		
		現 代 数 学 入 門	1後	2			□		
平 和 学		1前	2			□			
学際領域	時 事 問 題	1後	2			□			
	外 国 の 社 会 と 文 化	1前	2	□		□			
	倫理学(工業倫理含む)	1前	2	□		□			
身体化学科目	科 学 技 術 史	1後	2	□		□			
	ス ポ ー ツ 科 学 実 習 1	1前	1	□		□			
	ス ポ ー ツ 科 学 実 習 2	1後	1	□		□			
	ス ポ ー ツ 科 学	2前	2			□			
	生 涯 ス ポ ー ツ	2後	2			□			

17
K
入
学
生

- (1)1年間の履修制限 48単位
- (2)卒業要件単位には必修科目(○印)、指定選択科目(□印)のみ算入される。
- (3)3年次終了時点で総合教育科目20単位を修得していない場合は卒業研究に着手できない。
- (4)構造コースは「無印」科目も卒業要件単位(8単位)に算入される。

(総合教育科目:言語文化育科目)

○必修科目 □指定選択必修科目 ●留学生のみ必修科目

区分	科目名称	開講 年 期	単 位	構 造	ル キ ー	自 然 語	学習・教育到達目標の 修了要件科目数	備考	
総合教育科目	英語	英語(Listening&Speaking)1	1前	1	□	□	4科目以上		
		英語(Listening&Speaking)2	1後	1	□	□			
		英語(Listening&Speaking)3	2前	1	□	□			
		英語(Listening&Speaking)4	2後	1	□	□			
		TOEIC上級(Listening)1	2前	1	□	□			
		TOEIC上級(Listening)2	2後	1	□	□			
		英語(Reading&Writing)1	1前	1	□	□			
		英語(Reading&Writing)2	1後	1	□	□			
		英語(Reading&Writing)3	2前	1	□	□			
		英語(Reading&Writing)4	2後	1	□	□			
		TOEIC上級(Reading)1	2前	1	□	□			
		TOEIC上級(Reading)2	2後	1	□	□			
		英語総合(上級)1	3前	1	□	□			
		英語総合(上級)2	3後	1	□	□			
	英語海外研修	2通	2	□	□				
	外国語	ドイツ語	ドイツ語入門1	1前	1	□	□		(コース共通) 指定選択必修科目(□)の中から英語を4科目以上を含む8科目以上 留学生は、総合コースのみ英語4科目以上
			ドイツ語入門2	1後	1	□	□		
			ドイツ語初級1	2前	1	□	□		
			ドイツ語初級2	2後	1	□	□		
			ドイツ語総合1	3前	1	□	□		
			ドイツ語総合2	3後	1	□	□		
			ドイツ語海外研修	2通	2	□	□		
		フランス語	フランス語入門1	1前	1	□	□		
			フランス語入門2	1後	1	□	□		
			フランス語初級1	2前	1	□	□		
			フランス語初級2	2後	1	□	□		
			フランス語総合1	3前	1	□	□		
			フランス語総合2	3後	1	□	□		
			フランス語海外研修	2通	2	□	□		
	中国語	中国語入門1	1前	1	□	□			
		中国語入門2	1後	1	□	□			
		中国語初級1	2前	1	□	□			
中国語初級2		2後	1	□	□				
中国語総合1		3前	1	□	□				
中国語総合2		3後	1	□	□				
中国語海外研修		2通	2	□	□				
日本語	日本語読解1	1前	1	●	●	留学生対象 科目(必修)			
	日本語読解2	1後	1	●	●				
	日本語作文1	1前	1	●	●				
	日本語作文2	1後	1	●	●				
	上級日本語読解1	2前	1	●	●				
	上級日本語読解2	2後	1	●	●				
上級日本語作文1	2前	1	●	●					
上級日本語作文2	2後	1	●	●					

(1)1年間の履修制限 48単位

(2)卒業要件単位には必修科目(○印)、指定選択科目(□印)のみ算入される。

(3)3年次終了時点で総合教育科目20単位を修得していない場合は卒業研究に着手できない。

(4)3年次終了時点で卒業要件93単位以下は卒業研究に着手できない。

(4) 都市創造工学科の学習・教育到達目標のための卒業までの修了要件 (専門教育科目:工学基礎科目／コース共通科目)

○必修科目 □指定選択必修科目

区分	科目名称	開講 年次	単 位	総 合	構 造	自然 エネルギー	学習・教育到達目標の 修了要件科目数	備考		
専 門 教 育 科 目	工 学 基 礎 科 目	基礎数学および演習	1前	3	□	□	□	(総合) 必修科目(○)および「工学基礎数学1」・「工学基礎数学2」の1科目以上、物理4科目の中から2科目以上を含む9科目以上 (構造) 物理4科目の中から2科目以上を含む7科目以上 (自然エネルギー) 「工学基礎数学1」・「工学基礎数学2」から1科目以上、「物理学実験」・「化学実験」から1科目以上、物理・化学8科目の中から2科目以上を含む7科目以上	※	
		解析学	1	1前	2	□	□		□	※
		代数学	1	1前	2	□	□		□	※
		数学演習	1	1前	1	□	□		□	※
		解析学	2	1後	2	○	□		□	
		代数学	2	1後	2	○	□		□	
		数学演習	2	1後	1	○	□		□	
		代数学	3	2前	2	□	□		□	
		解析学	3	2前	2	□	□		□	
		工学基礎数学	1	3前	2	□	□		□	
	工学基礎数学	2	3後	2	□	□	□			
	物 理	基礎物理学および演習	1前	2	□	□	□	※	※	
		物理学1および演習	1前	2	□	□	□		※	
		物理学	2	1後	2	□	□		□	
		物理学実験	1後	2	○	□	□			全員履修
		基礎化学および演習	1前	2	□	□	□		※	※
化学1および演習		1前	2	□	□	□	※			
化学	2	1後	2	□	□	□	※			
コ ー ス 共 通	工 学 英 語 倫 理	化学実験	1前	2	□	□	□			
		CAD演習	1	2前	2	□	○	○	(総合) 必修科目(○)および「CAD演習1」・「CAD演習2」から1科目以上、「地球科学」・「環境生態」から1科目以上を含む6科目以上 (構造)(自然エネルギー) 必修科目(○)および指定選択必修科目(□)から修得	全員履修 全員履修
		CAD演習	2	2後	2	□	○	□		
		測量学	1	1後	2	○	○	○		
		測量学	2	2前	2	□	□	□		
		測量学実習	2前	2	○	○	○			
		地球科学	1後	2	□	□	□			
		環境生態	1前	2	□	□	□			
工学英語	3前	2	○	○	○					
工学倫理	3前	2	○	○	○					

※4年間で卒業するためには、プレイメントテストの結果、指定された科目の単位は1年次で必ず修得のこと。

- (1) 1年間の履修制限 48単位
- (2) 卒業要件単位には必修科目(○印)、指定選択科目(□印)のみ算入される。
- (3) 3年次終了時点で卒業要件93単位以下は卒業研究に着手できない。
- (4) 構造コースは「無印」科目も卒業要件単位(8単位)に算入される。

17
K
入
学
生

(専門教育科目:都市創造コース科目／総合・構造コース科目)

○必修科目 □指定選択必修科目 -コースで履修できない科目

区分	科目名称	開講 年	単 位	総 合	構 造	ル 半 自 然 主	学習・教育到達目標の 修了要件科目数	備考				
専 門 教 育 科 目	材 料	建設材料	2後	2	○	○	□	(総合) 必修科目(○)を含む指定選 択必修13科目以上				
		鉄筋コンクリート	3前	2	□	○	□					
		道路工学	3前	2	□		□					
	構 造	構造力学 1	2前	2	□	○	○		(総合) 必修科目(○)および指定選 択必修科目(□)から修得			
		構造力学 2	2後	2	○	○	□					
		構造工学	3後	2	□	○						
	地 盤	土質力学 1	2前	2	□	○	○			(総合) 必修科目(○)および 「都市創造最前線」・「建設施 工学」から1科目以上、 「地震工学」・「建設マネー ジメント」・「維持管理工学」から 1科目以上 総合8科目の中から5科目以 上 演習8科目の中から6単位以 上		
		土質力学 2	2後	2	○	○	□					
		地盤工学	3後	2	□	□	□					
	水 理	水理学 1	2前	2	□		○				(総合) 必修科目(○)および 「都市創造最前線」・「建設施 工学」から1科目以上、 「地震工学」・「建設マネー ジメント」・「維持管理工学」から 1科目以上 総合8科目の中から5科目以 上 演習8科目の中から6単位以 上	
		水理学 2	2後	2	○		□					
		河海工学	3前	2	□		□					
	計 画	土木計画学	3前	2	○		□					(総合) 必修科目(○)および 「都市創造最前線」・「建設施 工学」から1科目以上、 「地震工学」・「建設マネー ジメント」・「維持管理工学」から 1科目以上 総合8科目の中から5科目以 上 演習8科目の中から6単位以 上
		交通システム工学	2前	2	○		□					
		都市計画	2後	2	□	○	□					
	環 境	環境工学 1	2前	2	○	○	□	(総合) 必修科目(○)および 「都市創造最前線」・「建設施 工学」から1科目以上、 「地震工学」・「建設マネー ジメント」・「維持管理工学」から 1科目以上 総合8科目の中から5科目以 上 演習8科目の中から6単位以 上				
		環境工学 2	2後	2	□	○	□					
		環境システム	3前	2	□	○	□					
	総 合	資源リサイクル	3後	2	○	○	○		(総合) 必修科目(○)および 「都市創造最前線」・「建設施 工学」から1科目以上、 「地震工学」・「建設マネー ジメント」・「維持管理工学」から 1科目以上 総合8科目の中から5科目以 上 演習8科目の中から6単位以 上			
		都市創造最前線	3後	2	□	□	□					
		建設施工学	3前	2	□	□	□					
	演 習	地震工学	4前	2	□	□	□			(総合) 必修科目(○)および 「都市創造最前線」・「建設施 工学」から1科目以上、 「地震工学」・「建設マネー ジメント」・「維持管理工学」から 1科目以上 総合8科目の中から5科目以 上 演習8科目の中から6単位以 上		
		建設マネジメント	4前	2	□	□						
維持管理工学		4前	2	□	□							
実 験	橋梁工学	3後	2	□			(総合) 必修科目(○)および 「都市創造最前線」・「建設施 工学」から1科目以上、 「地震工学」・「建設マネー ジメント」・「維持管理工学」から 1科目以上 総合8科目の中から5科目以 上 演習8科目の中から6単位以 上					
	防災工学	3後	2	□		□						
	構造力学演習	2後	2	□	○	□						
演 習	土質力学演習	2後	2	□	□	□					(総合) 必修科目(○)および 「都市創造最前線」・「建設施 工学」から1科目以上、 「地震工学」・「建設マネー ジメント」・「維持管理工学」から 1科目以上 総合8科目の中から5科目以 上 演習8科目の中から6単位以 上	
	水理学演習	2後	2	□		□						
	地域・計画学演習	3後	2	□								
演 習	鉄筋コンクリート演習	3前	2	□	□	□		(総合) 必修科目(○)および 「都市創造最前線」・「建設施 工学」から1科目以上、 「地震工学」・「建設マネー ジメント」・「維持管理工学」から 1科目以上 総合8科目の中から5科目以 上 演習8科目の中から6単位以 上				
	3D・VR設計演習(設計製図含む)	3後	3	□	○							
	特別演習	4前	1	○	-	-						
実 験	卒業演習	4前	1	○	-	-			(総合) 必修科目(○)および 「都市創造最前線」・「建設施 工学」から1科目以上、 「地震工学」・「建設マネー ジメント」・「維持管理工学」から 1科目以上 総合8科目の中から5科目以 上 演習8科目の中から6単位以 上			
	建設材料実験	3前	1	○	○	□						
	土質実験	3前	1	○	○	□						
演 習	水理実験	3後	1	○		□				(総合) 必修科目(○)および 「都市創造最前線」・「建設施 工学」から1科目以上、 「地震工学」・「建設マネー ジメント」・「維持管理工学」から 1科目以上 総合8科目の中から5科目以 上 演習8科目の中から6単位以 上		
	衛生実験	3後	1	○		□						
	都市創造デザイン	3後	1	○	○	-						

(1)1年間の履修制限 48単位

(2)卒業要件単位には必修科目(○印)、指定選択科目(□印)のみ算入される。

(3)3年次終了時点で卒業要件93単位以下は卒業研究に着手できない。

(専門教育科目:総合・構造コース科目 / 自然エネルギーコース科目)

○必修科目 □指定選択必修科目 -コースで履修できない科目

区分	科目名称	開講 年 期	単 位	綜 合	構 造	自 然 エ ネ ル ギ ー	学習・教育到達目標の 修了要件科目数	備考			
資格 ス キ ル 支 援	まちづくり論 1	3前	2		<input type="checkbox"/>	-	(総合) 卒業要件に算入されない (構造)(自然エネルギー) 指定選択科目(□)から修得				
	まちづくり論 2	3前	2		<input type="checkbox"/>	-					
	まちづくり論 3	3後	2		<input type="checkbox"/>	-					
	特別講義 1	3前	2		<input type="checkbox"/>						
	特別講義 2	3前	2		<input type="checkbox"/>						
	特別講義 3	3後	2		<input type="checkbox"/>						
	建築学概論	4前	2		<input type="checkbox"/>	-					
	都市景観	4前	2		<input type="checkbox"/>						
	建設法規 1	3前	2		<input type="checkbox"/>	-					
	建設法規 2	3後	2		<input type="checkbox"/>	-					
	特別講義 A	3前	2		<input type="checkbox"/>	-					
	特別講義 B	3後	2		<input type="checkbox"/>	-					
電気設備概論	3後	2	-	-	<input type="checkbox"/>						
自然 エ ネ ル ギ ー コ ー ス 共 通 科 目	自然環境学概論	2前	2	-	-	○	自然エネルギーコースのみ 履修 (自然エネルギー) 必修科目(○)を含む指定選 択科目(□)から7科目以上				
	自然エネルギー工学概論	2後	2	-	-	○					
	発変電工学	3前	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
	自然環境計測法	3前	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
	風力エネルギー工学	3前	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
	太陽エネルギー工学	3前	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
	海洋エネルギー工学	3後	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
	熱利用工学	3後	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
	エネルギー貯蔵工学	3後	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
	エネルギー伝送工学	3後	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
	電 子 情 報 通 信 科 目	電磁気学 1	2前	2	-	-			<input type="checkbox"/>	自然エネルギーコースのみ 履修 (自然エネルギー) 指定選択科目(□)から5科 目以上	
		電磁気学 2	2後	2	-	-			<input type="checkbox"/>		
電気回路 1		2前	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
電気回路 2		2後	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
電磁気・回路演習 1		2前	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
電磁気・回路演習 2		2後	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
アナログ電子回路		2後	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
論理回路		2後	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
制御工学 1		3前	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
制御工学 2		3後	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
デ ザ イ ン	電子デバイス概論	2後	2	-	-	<input type="checkbox"/>	自然エネルギーコースのみ履 修 (自然エネルギー) 必修科目(○)を全て修得				
	電子計測	2後	2	-	-	<input type="checkbox"/>					
	自然エネルギーデザイン1	2前	1	-	-	○					
卒 業 研 究	自然エネルギーデザイン2	2後	1	-	-	○	必修科目(○)1科目修得				
	自然エネルギーデザイン3	3後	1	-	-	○					
卒 業 研 究	卒業研究論文	4通	6	○	○	-	必修科目(○)1科目修得				
	卒業研究	4通	4	-	-	○					

(1)1年間の履修制限 48単位

(2)卒業要件単位には必修科目(○印)、指定選択科目(□印)のみ算入される。

(3)3年次終了時点で卒業要件93単位以下は卒業研究に着手できない。

17
K
入
学
生

(5) 都市創造工学科 17Kカリキュラム履修モデル表 (学級の学習・教育到達目標に基づく)

分野	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
実践教育科目	◎都市創造入門セミナー 学習リテラシー*	○フィールドワーク*							(コース共通) 各コース必修科目と「日本語とコミュニケーション1」「日本語とコミュニケーション2」から1科目以上を含む、他の指定選択必修科目とあわせて7科目以上
教育科目	日本語とコミュニケーション1 大阪産業大学と社会	日本語とコミュニケーション2	キャリアデザイン1	キャリアデザイン2	キャリアデザイン3				
人文科学 (留学生科目)	文学 ◎日本事情1 ◎日本事情2	心理学 ◎日本の事情2	(文学)	(心理学)	インターンシップ				(コース共通) 左記11科目のうち「文学」「心理学」「経済学の基礎」「倫理学」から1科目以上とし、他の指定選択必修科目とあわせて6科目以上
社会科学	(経済学の基礎) 地理学 現代の政治 科学技術史	(日本憲法) (経済学の基礎) (地理学) 現代の政治 科学技術史							
自然科学・学際領域	物質科学 環境科学 倫理学(工業倫理含む) 外国の社会と文化	物質科学 環境科学 (倫理学(工業倫理含む)) (外国の社会と文化)							留学生は、留学生必修科目(◎)および「文学」「心理学」「経済学の基礎」「倫理学」から1科目以上を含む6科目以上
英語	英語L&S1 英語R&W1	英語L&S2 英語R&W2	英語L&S3 TOEIC上級(L)1 英語R&W3 TOEIC上級(R)1	英語L&S4 TOEIC上級(L)2 英語R&W4 TOEIC上級(R)2	英語総合(上級)1 英語総合(上級)2				(コース共通) 左記外国語のうち英語4科目以上とし、他の指定選択必修科目(1言語)とあわせて8科目以上
言語文化科目	ドイツ語入門1 フランス語入門1 中国語入門1	ドイツ語入門2 フランス語入門2 中国語入門2	英語海外研修 ドイツ語初級1 フランス語初級1 中国語初級1	ドイツ語初級2 フランス語初級2 中国語初級2 ドイツ語・フランス語・中国語海外研修					
日本語 (留学生科目)	◎日本語読解1 ◎日本語作文1	◎日本語読解2 ◎日本語作文2	◎上級日本語読解1 ◎上級日本語作文1	◎上級日本語読解2 ◎上級日本語作文2					留学生は、総合総合コースのみ英語4単位以上
身体科学科目	スポーツ科学実習1	スポーツ科学実習2							留学生は左記8科目を全て修得

◎総合教育科目のうち、上記科目のみ卒業要件単位に参入される(自然エネルギーコースを除く)。
*実践教育科目は、3年次修了時点において8単位以上修得すること(卒業研究着手の履修制限)。
◎総合教育科目は、3年次修了時点において20単位以上修得すること(卒業研究着手の履修制限)。
*総合教育科目の卒業要件単位数は、言語文化科目(英語4単位以上を含む)8単位以上、かつ20単位以上。

都市創造工学科 17Kカリキュラム履修モデル表 (学科の学習・教育到達目標に基づく)

(全コース共通) ※印は、1年次全員履修科目 ◎全コース必修科目 ○コース必修科目

分野	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
数学	解析学1	○解析学2	解析学3	後期	工学基礎数学1	工学基礎数学2	前期	後期	(総合) 必修科目および「工学基礎数学1」「工学基礎数学2」の1科目以上、物理4科目の中から2科目以上を含む9科目以上 (構造) 物理4科目の中から2科目以上を含む7科目以上 (自然エネルギー) 「工学基礎数学1」「工学基礎数学2」から1科目以上、「物理学実験1」「化学実験1」から1科目以上、物理・化学8科目の中から2科目以上を含む7科目以上
	代数学1	○代数学2	代数学3						
	数学演習1	○数学演習2							
	基礎数学および演習	(解析学1) (代数学1) (数学演習1)	(○解析学2) (○代数学2) (○数学演習2)	(解析学3) (代数学3)					
自然科学	物理学1および演習	物理学2		後期			前期	後期	
	基礎物理学および演習1	(物理学1および演習)	(物理学2)						
		○物理学実験	(○物理学実験)						
	化学1および演習	化学2	化学2						
情報処理	基礎化学および演習	(化学1および演習)		後期			前期	後期	
	(○)化学実験		(化学2)						
	○コンピュータリテラシー*		(○)CAD演習1		(○)CAD演習2				

*4年間で卒業するためには、数学、物理、化学のプレイスメントで指定された科目での単位は1年次で必ず修得すること。

都市創造工学科 17Kカリキュラム履修モデル表 (学科の学習・教育到達目標に基づく)

分野	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	コース共通		測置学2* (○) 地球生態*	測置学実習	測置学実習	測置学実習	測置学実習	測置学実習	
(建設材料)	測置学1* 地球科学*		建設材料	建設材料 鉄筋コンクリート演習 道路工学	工学英語 工学倫理 (○) 工学英語 資源リサイクル				(総合) 必修科目およびCAD演習1、CAD演習2から1科目以上、地球科学1、環境生態から1科目以上を含む6科目以上(構造物(自然エネルギー)必修科目および指定選択必修科目から修得)
(構造力学)		(○) 構造力学1	(○) 構造力学2 構造力学演習				卒業演習 特別演習		(総合) 必修科目を含む2科目以上
(地盤工学)		(○) 土質力学1	(○) 土質力学2 土質力学演習		(○) 構造工学 構架工学		卒業演習		(総合) 必修科目を含む1科目以上
(水工水理学)		(○) 水理学1	(○) 水理学2 (○) 水理学演習		土質実験 河湖工学		卒業演習 特別演習		(総合) 必修科目を含む2科目以上
(土木計画学・ 交通システム工学)			(○) 交通システム工学 (○) 都市計画		土木計画学		卒業演習		(総合) 必修科目を含む2科目以上
(環境工学)			(○) 環境工学1	(○) 環境工学2	(○) 環境システム		卒業演習 特別演習		(総合) 必修科目を含む2科目以上

※印は、1年次全員履修科目 ○全コース必修科目 ○コース必修科目

都市創造工学科 17Kカリキュラム履修モデル表 (学科の学習・教育到達目標に基づく)

分野	1年次			2年次			3年次			4年次		備考
	前期	後期		前期	後期		前期	後期		前期	後期	
	※印は、1年次全員履修科目 ◎全コース必修科目 ○コース必修科目											
(総合コース) (構造コース)				(○)建設施工学 (○)建設施工学 (○)建設施工学 (○)建設施工学	防災工学 (○)コンクリート設計演習 (○)都市計画設計演習 (○)都市計画設計演習 (○)都市計画設計演習					地震工学 都市景観 建設マネジメント 維持管理工学		(総合) [都市創造]景観・建設施工 から「科目別建設マネジメント」 「維持管理工学」から1科目 以上
自然エネルギーコース (都市創造科目)				(○)自然環境学概論 自然環境学概論 風力エネルギー工学 太陽エネルギー工学	発電工学 自然環境計測法 風力エネルギー工学 太陽エネルギー工学	(○)自然エネルギー工学 熱利用工学 エネルギー貯蔵工学 エネルギー伝送工学				○都市創造デザイン 海洋エネルギー工学 熱利用工学 エネルギー貯蔵工学 エネルギー伝送工学 制御工学2		自然エネルギーコースのみ履修 (自然エネルギー) 必修科目を含む7科目以上
(電子情報通信履修科目)				電磁気学1 電気回路1 電磁気・回路演習1	電磁気学2 電気回路2 電磁気・回路演習2 アナログ電子回路 論理回路 電子デバイス概論 電子計測	制御工学1 電磁気学2 電気回路2 電磁気・回路演習2 アナログ電子回路 論理回路 電子デバイス概論 電子計測						自然エネルギーコースのみ履修 (自然エネルギー) 左記科目から7科目以上
(スキル支援)				(○)自然エネルギーデザイン1 (○)自然エネルギーデザイン2						自然エネルギーデザイン3 まちづくり論3 特別講義3 特別講義2 建設法規2 特別講義A 電気設備概論		自然エネルギーコースのみ履修 (自然エネルギー) 左記科目から7科目以上 左記科目を全て修得
												(総合) 卒業要件に算入されない (構造)(自然エネルギー) 指定選択科目から修得

※専門教育科目は、3年次修了時点において74単位以上修得すること(卒業研究着手の履修制限は卒業要件単位94単位以上)。

都市創造工学科 17Kカリキュラム履修モデル表 (学科の学習・教育到達目標に基づく)

履修モデルコース	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
全コース共通	(全コース共通) 実践教育科目 都市創造入門セミナー 学習リテラシー		◎測量学実習						
	○フィールドワーク ○コンピュータリテラシー		(○)CAD演習1	(○)CAD演習2	◎工学英語	◎キャリアデザイン3			
総合コース	日本語とコミュニケーション/日本産とコミュニケーション/2		6分野の科目と実修科目を履修						
構造コース	総合教育科目				○実験4科目				
	(1) 教養教育科目 指定科目 12単位以上				○都市創造デザイン		○卒業研究論文		
	(2) 言語文化科目 8単位以上(英語4単位以上)		建設材料・構造力学・地盤工学・土木計画学分野の科目を主として履修						
	(3) 身体教育科目 初修外国語 (4) 留学生は必修科目 12単位		◎実験2科目 まちづくり論1 まちづくり論2	◎実験2科目 まちづくり論1 まちづくり論2	◎実験2科目 まちづくり論3	◎都市創造デザイン		○卒業研究論文	
専門教育科目		環境工学・水理学・土木計画学・交通/工学分野の科目を主として履修							
自然エネルギーコース (1年次入学時決定)	(1) 数学・物理・化学のプレリミナメント 結果に基づく指定科目 (2) ○物理学実験* (○) 化学実験				◎実験2科目 まちづくり論1 まちづくり論2	◎実験2科目 まちづくり論3			
	(3) 1年次配当の専門教育科目全科目				◎都市創造デザイン		○卒業研究論文		
	◎測量学1 地球科学* [(○) 専攻生修]		都市創造科目の次理学・地盤工学・環境工学分野の基礎科目と実験2科目を主として履修 自然エネルギーコース科目を主として履修						
総合コース ・構造コース			◎自然エネルギーデザイン1	◎自然エネルギーデザイン2		◎実験2科目			
						◎自然エネルギーデザイン3		○卒業論文	

※印は、1年次全員履修科目 ◎全コース必修科目 ○全コース必修科目

測量士資格取得（都市創造工学科）に関わる科目

科目	単位	要件
測量学 1	2	測量学 1、 測量学 2、 測量学実習 を含む 30 単位以上
測量学 2	2	
測量学実習	2	
基礎数学および演習	3	
解析学1	2	
代数学 1	2	
数学演習 1	1	
解析学2	2	
代数学2	2	
数学演習2	1	
代数学 3	2	
解析学 3	2	
工学基礎数学 1	2	
工学基礎数学 2	2	
基礎物理学および演習	2	
物理学 1 および演習	2	
物理学2	2	
物理学実験	2	
土木計画学	2	
都市計画	2	
地球科学	2	
土質力学 1	2	
土質力学 2	2	
地盤工学	2	
土質力学演習	2	
土質実験	1	
構造力学 1	2	
構造力学 2	2	
構造工学	2	
構造力学演習	2	
水理学 1	2	
水理学 2	2	
水理学演習	2	
水理実験	1	
河海工学	2	
地域・計画学演習	2	
地震工学	2	
防災工学	2	

06. 資格取得

学科によって、卒業または特定の科目を修得することを条件に資格や免許の取得で優遇されるものがあります。以下の一覧表を参考に履修コースや履修科目を選択してください。

(1) 教員免許状

免許(資格)の種類	対象学科	取得の要件
高等学校教諭一種免許状(工業)	工学部全学科	それぞれの免許に定められた教職教科専門科目と教職専門科目の修得(詳細は教職ガイダンスで説明します。)
高等学校教諭一種免許状(情報)	電子情報通信工学科	
高等学校教諭一種免許状(数学)		
中学校教諭一種免許状(数学)		

(2) 学科あるいは特定科目の修得によって認定される資格

資格の種類	認定の内容	対象学科・コース	取得の要件
二級ガソリン自動車整備士 二級ゼーゼル自動車整備士	受験資格 ※実技試験免除	交通機械工学科の 自動車工学コース	特定科目の修得および卒業 ※卒業年次10~3月実施の 「整備技術講習」修了で実技試験免除
電気通信主任技術者 (伝送交換主任) (線路主任)	受験科目 一部免除	電子情報通信工学科	特定科目の修得
電気通信の工事担任者	受験科目 一部免除	電子情報通信工学科	特定科目の修得および卒業
第一級陸上特殊無線技士 第二級海上特殊無線技士	申請による 資格取得		
1級建築士	受験資格	都市創造工学科の 総合コース、構造コース、	特定科目の修得および 卒業後の実務経験(2~4年)

資格の種類	認定の内容	対象学科・コース	取得の要件
2級建築士 木造建築士	受験資格	総合コース、構造コース、 自然エネルギーコース	特定科目の修得および 卒業後の実務経験(0~2年)
測量士補	申請による 資格取得	都市創造工学科	測量士補に関する科目を修得および卒業 ※実務経験により測量士の資格取得可

(3) 本学で実施する資格試験

資格の種類	対象学科	取得の要件・その他
日本商工会議所認定 簿記検定試験2・3・4級	全学科	試験合格(年3回実施されますが、 本学では6月と11月の年2回を学内で実施します。 申込方法は、掲示板でお知らせします。)
ガス溶接技能者	全学科	ガス溶接技能講習修了

07. 飛び級制度

飛び級制度とは、「学校教育法施行規則第70条第1項第4号」により導入された制度です。

大学院へ進む場合、大学を卒業してから大学院へ入学するのが一般的ですが、特に優秀な学生で、大学に3年以上在学し、かつ研究者として優れた資質を有する者に早期から大学院教育を実施する道をひらくのが飛び級制度です。

この制度を適用する場合、以下の「大学院学則」および「大学院学則の適用基準に関する工学研究科内規」に基づき実施されます。

この規程により大学院への入学資格を認められると、大学と大学院の両方に在籍することはできませんので、合格者はすみやかに在籍する大学の退学手続きをとり、大学院入学手続きをしてください。詳細についての問い合わせは、教務課に相談してください。

なお、種々の国家試験等の受験資格では、大学の学部卒業を要件としているものがあります。その場合は、不利となることを承知しておく必要があります。

参考

— 飛び級入学資格 —

平成18年4月以降に工学部に入学した学生が飛び級での大学院入学資格を得るためには、以下の条件を全て満たしてください。

- ① 本学工学部に1年次より在学
- ② 4年次配当の必修科目を除く卒業要件単位を全て修得、かつ124単位以上修得
- ③ 全修得科目の平均点が88点以上
- ④ 当該学科で推薦

08. 大学院工学研究科授業科目早期履修制度

大学院授業科目早期履修とは、大学院で学ぶことの目的意識を高め研究課題を見出す機会として、本学大学院工学研究科への進学を希望する本学学部の4年次生を対象に、大学院の授業を履修できる制度です。

この制度を活用すれば、計画的に大学院進学の準備を整えつつ、早期に専門分野の攻究と研究課題の探求に繋げることも可能となります。

なお、この制度には、3年次終了時に一定の成績を修めること等の条件がありますので、詳しくは所属学科および進学を希望する大学院（専攻）の先生あるいは大学院事務室に問い合わせして下さい。

Chapter

03

**15K
編入生**

編入生
15K

01. 履修制限	060
02. 「卒業研究」について	061
03. 卒業要件単位数（外国人留学生も共通）	062
04. 卒業見込証明書と卒業／履修要件	063

編入生 15K

01. 履修制限

都市創造工学科の履修には次のような制限がありますので、注意してください。

15K編入生に適用

1年間に履修できる単位数	最大50単位(教職に関する専門教育科目を除く)
学年による科目の制限	1年次:1年次配当科目から選択できます。 2年次:1、2年次の配当科目から選択できます。 3年次:1、2、3年次の配当科目から選択できます。 4年次:すべての開講科目から選択できます。
専門教育科目 工学基礎・ 情報処理科目	(1)「基礎数学および演習」 入学時のプレースメントテストの結果、「基礎数学および演習」を履修し、単位未修得の学生は後期再クラスを受講できます。 (2)「基礎物理学および演習」 入学時のプレースメントテストの結果、「基礎物理学および演習」を履修し、単位未修得の学生は後期再クラスを受講できます。 (3)「基礎化学および演習」 入学時のプレースメントテストの結果、「基礎化学および演習」を履修し、単位未修得の学生は後期再クラスを受講できます。

プレースメントテストの点数が基準に満たない学生には、「基礎数学および演習」・「基礎物理学および演習」・「基礎化学および演習」を1年次前期に履修することを義務づけています(編入生除く)。いずれも都市創造工学科の科目を学ぶにあたって基礎となる重要な科目です。なお、単位未修得の場合には1年次後期開講の再履修クラスを受講し単位修得すること。単位修得ができない場合には4年間で卒業が困難となることがありますので留意してください。また、基礎科目(数学、物理学、化学)の修得には、「学習支援センター」を大いに利用し基礎学力のアップに努めてください。

総合教育科目 言語文化科目	(1)卒業要件単位は8単位以上(うち英語の卒業要件単位を4単位以上)とします。(留学生を除く) (2)ドイツ語、フランス語、中国語を選択する学生は、それぞれ「ドイツ語入門1」、「フランス語入門1」、「中国語入門1」を最初に履修してください。 (3)留学生は ①母国語を履修することができません。 ②日本語8単位を必修とします。
その他	既に単位認定を受けている科目は、再度履修することはできません。

編入生
15K

02. 「卒業研究」について

(1) 「卒業研究」を履修するには？

- ・卒業するためには、「卒業研究」(4年次配当科目)を修得しなければなりません。
- ・「卒業研究」を履修するためには、3年次修了までに履修資格を得ることが必要です。
- ・「卒業研究」の履修について質問や相談がある場合は、Web履修申請する前に教務課で相談してください。
- ・卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課で相談してください。

(2) 履修資格

「卒業研究」を履修するためには、3年次修了時において次の3つの条件を満たさなければなりません。

- ①卒業要件単位数(124単位)のうち、94単位以上修得している。
- ②総合教育科目の卒業要件20単位上修得している。
- ③専門必修科目の実験、実習および演習の未修得単位が2単位以内である。

—参考—(「卒業研究」履修資格を得るために必要な科目)

総合コース		構造コース	
科目名	単位	科目名	単位
フィールドワーク	2	フィールドワーク	2
物理学実験	2	測量学実習	2
測量学実習	2	建設材料実験	1
建設材料実験	1	土質実験	1
土質実験	1	都市創造デザイン1	1
水理実験	1	都市創造デザイン2	1
衛生実験	1		
都市創造デザイン1	1		
都市創造デザイン2	1		
環境コース		自然エネルギーコース	
科目名	単位	科目名	単位
フィールドワーク	2	測量学実習	2
化学実験	2	自然エネルギーデザイン1	1
測量学実習	2	自然エネルギーデザイン2	1
水理実験	1	自然エネルギーデザイン3	1
衛生実験	1	物理学実験	2
都市創造デザイン2	1	化学実験	

03. 卒業要件単位数(外国人留学生も共通)

卒業するためには、以下の2つの条件を満たさなければなりません。

①4年間(編入生は2年間)以上在学

休学期間は在学年数に含まれません。したがって、半期でも休学すると4年(編入生は2年)で卒業することができません。

②学科で定められた卒業要件単位数124単位数以上(編入生は別途定める)を修得

カリキュラム上、区分ごとに卒業要件に必要な単位数が異なります。履修の仕方によっては単位を修得しても卒業要件単位に入らない場合がありますので、注意してください。

[本学に入学する前に修得した単位のうち、当該学科が定める基準を満たした単位を、卒業要件単位に充当することができます。]

卒業要件単位数 124単位数以上

実践教育科目		8単位数以上		20 単 位 以 上	124 単 位 以 上	学 士 (工 学)	
総 合 教 育 科 目	教 養 教 育 科 目	教養入門ゼミ					
		人文科学	指定選択必修科目 の中から6科目以上				12 単 位 以 上
		社会科学					
		自然科学					
		学際領域					
(日本事情1・日本事情2) (日本の社会と文化1・日本の社会と文化2)	(留学生4科目)						
科 目 文 化	身 体 科 学 科 目	英 語(4単位以上)	指定選択必修科目 の中から8科目以上	8 単 位 以 上			
		初修外国語					
		日 本 語(留学生科目)					
専門教育科目	各コースで指定する必修科目、指定選択必修科目の 単位を合わせて修得		88単位数以上		4 年 以 上 在 学		

注)初修外国語は、ドイツ語・フランス語・中語語のうち1言語のみとする。

注)留学生は、総合コースのみ英語4単位数以上。

単位修得にあたっての留意事項

- ①単位の修得にあたっては、講義科目は2/3以上、実験・実習・演習科目は3/4以上の出席を最低条件としています。
- ②都市創造工学科では、学科の学習・教育到達目標に基づき修了要件の科目を指定し、学習保証時間を定めております。
- ③科目履修は学科教員の指導のもとに履修申請をすること。
- ④学習保証時間の確保のために、前期・後期ともに最低15回の授業を行います。
- ⑤15回を確保するため、学年暦にかかわらず補講を行います。
- ⑥留学生は、教養教育科目分野の日本文化および言語文化科目分野の日本語を必修とする。ただし、「日本語とコミュニケーション1・2」については、随意選択科目とする。
- ⑦基礎科目を履修する学生は1年次前期に単位を修得すること。未修得の場合4年間で卒業できないこともあります。

編入生
15K

04. 卒業見込証明書と卒業／履修要件

(1)「卒業研究」と「卒業見込証明書」

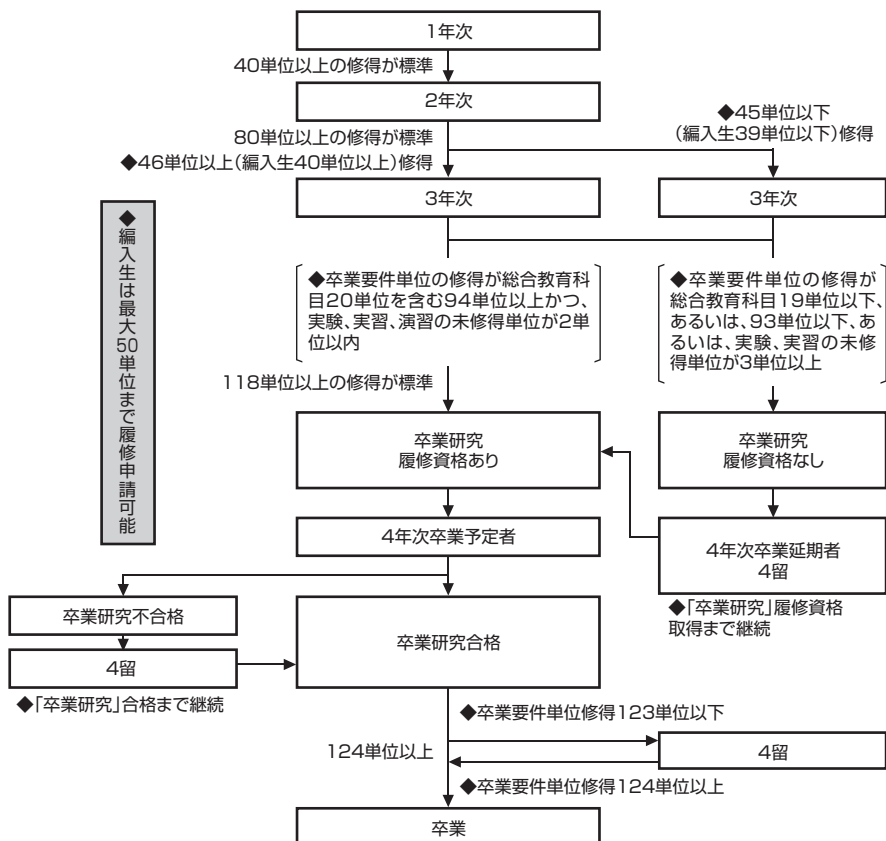
「卒業研究」の履修資格を得た学生を、卒業予定者と呼び、4年次になった4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機(本館1階、クリスタルテラス、梅田サテライト)を利用してください。

(2)進級の条件

修得単位数に関する履修制限はありませんので、4年次まで進級は可能です。しかし、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、4年間では卒業できなくなります。また、進級するためには、1年を通じて在学していなければなりません。

なお、1年間で最大50単位の履修制限がありますので、計画的に修学してください。



編入生
15K

◆編入生は最大50単位まで履修申請可能

※卒業延期者においては、前期(半期)科目で卒業要件単位を修得した場合に限り、9月期卒業が可能となります。

(3) 都市創造工学科の学習・教育到達目標のための卒業までの修了要件 (実践教育科目)

○必修科目 □指定選択必修科目

区分	科目名称	開講 年 期	単 位	造 環 境 構 成	自 然 工 学	学習・教育到達目標の 修了要件科目数	備考	
実 践 教 育 科 目	都市創造入門セミナー	1前	1	○	○	(コース共通) 各コース必修科目と 「日本語とコミュニケーション1」・ 「日本語とコミュニケーション2」 から1科目以上を含む7科目以上	全員履修	
	学 習 リ テ ラ シ ー	1前	1	□	□		全員履修	
	コンピュータリテラシー	1前	1	○	○		全員履修	
	フ ィ ー ル ド ワ ー ク	1後	2	○	□		全員履修	
	日本語とコミュニケーション1	1前	1	□	□		全員履修	
	日本語とコミュニケーション2	1後	1	□	□		全員履修	
	キャリアデザイン1	2後	1	□	□		「日本語とコミュニケーション1」・ 「日本語とコミュニケーション2」 から1科目以上を含む7科目以上	全員履修
	キャリアデザイン2	3前	1	□	□			
	キャリアデザイン3	3後	1	○	○			
	イ ン タ ー ン シ ッ プ	3集	2	□	□			(集中)
	実 践 特 別 科 目	3後	2					
	大阪産業大学と社会	1前	1	□	□			

(1)1年間の履修制限 50単位

(2)卒業要件単位には必修科目(○印)、指定選択科目(□印)のみ算入される。

(3)3年次終了時点で総合教育科目20単位を修得していない場合は卒業研究に着手できない。

(4)3年次終了時点で卒業要件93単位以下は卒業研究に着手できない。

(総合教育科目:教養教育科目 / 身体科学科目)

□指定選択必修科目 ●留学生のみ必修科目

区分	科目名称	開講 年 期	単 位	総 造 環 境	自 然 科 学	学 習 ・ 教 育 到 達 目 標 の 修 了 要 件 科 目 数	備 考	
総合教育科目	教 養 入 門 ゼ ミ	1前	2		□			
	人 文 科 学	文 学	1後	2	□	□		
		哲 学	1後	2		□		
		論 理 学	1後	2		□		
		心 理 学	1前	2	□	□		
		社 会 思 想 史	1後	2		□		
		日 本 事 情 1	1前	2	●	●		留学生対象 科目(必修)
	日 本 事 情 2	1後	2	●	●			
	社 会 科 学	日 本 国 憲 法	1前	2	□	□	(コース共通) 「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」の中から1科目以上とし、他の指定選択必修科目(□)と合わせて6科目以上	
		現 代 の 政 治	1後	2	□	□		
		経 済 学 の 基 礎	1後	2	□	□		
		近 代 史	1後	2		□		
		地 理 学	1前	2	□	□		
		日 本 の 社 会 と 文 化 1	1前	2	●	●		留学生対象 科目(必修)
	自 然 科 学	日 本 の 社 会 と 文 化 2	1後	2	●	●		
		物 質 科 学	1後	2	□	□		
		宇 宙 科 学	1前	2		□		
		環 境 科 学	1後	2	□	□		
		生 命 科 学	1前	2		□		
		現 代 数 学 入 門	1後	2		□		
学 際 領 域	平 和 学	1前	2		□			
	時 事 問 題	1後	2		□			
	外 国 の 社 会 と 文 化	1前	2	□	□			
	倫 理 学 (工 業 倫 理 含 む)	1前	2	□	□			
身 体 化 学 科 目	科 学 技 術 史	1後	2	□	□			
	ス ポ ー ツ 科 学 実 習 1	1前	1	□	□			
	ス ポ ー ツ 科 学 実 習 2	1後	1	□	□			
	ス ポ ー ツ 科 学	2前	2		□			
	生 涯 ス ポ ー ツ	2後	2		□			

- (1) 1年間の履修制限 50単位
- (2) 卒業要件単位には必修科目(○印)、指定選択科目(□印)のみ算入される。
- (3) 3年次終了時点で総合教育科目20単位を修得していない場合は卒業研究に着手できない。
- (4) 3年次終了時点で卒業要件93単位以下は卒業研究に着手できない。

編入生 15K

(総合教育科目:言語文化育科目)

○必修科目 □指定選択必修科目 ●留学生のみ必修科目

区分	科目名称	開講 年 期	単 位	造 環 境 構 成	自 然 工 学	学習・教育到達目標の 修了要件科目数	備考		
総合教育科目	英語	英語(Listening&Speaking)1	1前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4科目以上		
		英語(Listening&Speaking)2	1後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		英語(Listening&Speaking)3	2前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		英語(Listening&Speaking)4	2後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		TOEIC上級(Listening)1	2前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		TOEIC上級(Listening)2	2後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		英語(Reading&Writing) 1	1前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		英語(Reading&Writing) 2	1後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		英語(Reading&Writing) 3	2前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		英語(Reading&Writing) 4	2後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		TOEIC上級(Reading)1	2前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		TOEIC上級(Reading)2	2後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		英語総合(上級)1	3前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		英語総合(上級)2	3後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		英語海外研修	2通	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
	初修外国語	ドイツ語入門1	1前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(コース共通) 指定選択必修科目(□)の中から英語を4科目以上を含む8科目以上		
		ドイツ語入門2	1後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		ドイツ語初級1	2前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		ドイツ語初級2	2後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		ドイツ語総合1	3前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		ドイツ語総合2	3後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		ドイツ語海外研修	2通	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		フランス語入門1	1前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			留学生は、総合コースのみ英語4科目以上
		フランス語入門2	1後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		フランス語初級1	2前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		フランス語初級2	2後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		フランス語総合1	3前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		フランス語総合2	3後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		フランス語海外研修	2通	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
		中国語入門1	1前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
中国語入門2	1後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
中国語初級1	2前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
中国語初級2	2後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
中国語総合1	3前	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
中国語総合2	3後	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
中国語海外研修	2通	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
日本語	日本語読解1	1前	1	●	●	留学生対象 科目(必修)			
	日本語読解2	1後	1	●	●				
	日本語作文1	1前	1	●	●				
	日本語作文2	1後	1	●	●				
	上級日本語読解1	2前	1	●	●				
	上級日本語読解2	2後	1	●	●				
	上級日本語作文1	2前	1	●	●				
上級日本語作文2	2後	1	●	●					

(1)1年間の履修制限 50単位

(2)卒業要件単位には必修科目(○印)、指定選択科目(□印)のみ算入される。

(3)3年次終了時点で総合教育科目20単位を修得していない場合は卒業研究に着手できない。

(4)3年次終了時点で卒業要件93単位以下は卒業研究に着手できない。

編
入
生
15
K

(4) 都市創造工学科の学習・教育到達目標のための卒業までの修了要件 (専門教育科目:工学基礎科目／コース共通科目)

○必修科目 □指定選択必修科目

区分	科目名称	開講 年	単 位	総 合	構 造	環 境	自然 エネルギー	学習・教育到達目標の 修了要件科目数	備考	
専 門 教 育 科 目	工 学 基 礎 科 目	基礎数学および演習	1前	3	□	□	□	□	(総合) 必修科目(○)および「工 学基礎数学1」・「工学基 礎数学2」の1科目以上、 物理4科目の中から2科 目以上を含む9科目以 上 (構造) 物理4科目の中から2科 目以上を含む7科目以上 (環境) 必修科目(○)および化 学4科目の中から2科目 以上を含む7科目以上	※
		解析学 1	1前	2	□	□	□	□		※
		代数学 1	1前	2	□	□	□	□		※
		数学演習 1	1前	1	□	□	□	□		※
		解析学 2	1後	2	○	□	□	□		
		代数学 2	1後	2	○	□	□	□		
		数学演習 2	1後	1	○	□	□	□		
		代数学 3	2前	2	□	□	□	□		
		解析学 3	2前	2	□	□	□	□		
	物 理 学 科	工学基礎数学 1	3前	2	□	□	□	□		
		工学基礎数学 2	3後	2	□	□	□	□		
		基礎物理学および演習	1前	2	□	□	□	□		※
		物理学 1 および演習	1前	2	□	□	□	□	(自然エネルギー) 「工学基礎数学1」・「工 学基礎数学2」から1科 目以上、「物理学実験」・ 「化学実験」から1科目 以上、物理・化学8科目 の中から2科目以上を 含む7科目以上	※
		物理学 2	1後	2	□	□	□	□		
		物理学実験	1後	2	○	□	□	□		全員履修
		基礎化学および演習	1前	2	□	□	□	□		※
化 学 科	化学 1 および演習	1前	2	□	□	□	□		※	
	化学 2	1後	2	□	□	□	□			
	化学実験	1前	2	□	□	○	□			
コ ー ス 共 通	C A D 演習 1	2前	2	□	○	○	○	(総合) 必修科目(○)および 「CAD演習1」・「CAD 演習2」から1科目以上、 「地球科学」・「環境生態」 から1科目以上を含む6 科目以上	全員履修	
	C A D 演習 2	2後	2	□	○	□	□		全員履修	
	測量学 1	1前	2	○	○	○	○			
	測量学 2	1後	2	□	□	□	□			
	測量学実習	2前	2	○	○	○	○			
	地球科学	1後	2	□	□	□	□	(構造)(環境)(自然エネ ルギー) 必修科目(○)および指 定選択必修科目(□)か ら修得	全員履修	
	環境生態	1前	2	□	□	○	□		全員履修	
	工学英語	3前	2	○	○	○	○			
工学倫理	3前	2	○	○	○	○				

※4年間で卒業するためには、プレイメントテストの結果、指定された科目の単位は1年次で必ず修得のこと。

- (1)1年間の履修制限 50単位
- (2)卒業要件単位には必修科目(○印)、指定選択科目(□印)のみ算入される。
- (3)3年次終了時点で卒業要件93単位以下は卒業研究に着手できない。
- (4)構造・環境コースは「無印」科目も卒業要件単位(8単位)に算入される。

(専門教育科目:都市創造コース科目／総合・構造・環境コース科目)

○必修科目 □指定選択必修科目 -コースで履修できない科目

区分	科目名称	開講 年 期	単 位	総 合	構 造	環 境	ル 半 一 半 二 半 三 半	自然 素 養	学習・教育到達目標の 修了要件科目数	備考			
専 門 教 育 科 目	材 料	建 設 材 料	2後	2	○	○	□	□	(総合) 必修科目(○)を含む指 定選択必修13科目以上 (構造)(環境)(自然エネ ルギー) 必修科目(○)および指 定選択必修科目(□)か ら修得				
		鉄 筋 コ ン ク リ ー ト	3前	2	□	○	□	□					
		道 路 工 学	3前	2	□	□	□	□					
	構 造	構 造 力 学 1	2前	2	□	○	□	○					
		構 造 力 学 2	2後	2	○	○	□	□					
		構 造 工 学	3後	2	□	○	□	□					
	地 盤	土 質 力 学 1	2前	2	□	○	□	○					
		土 質 力 学 2	2後	2	○	○	□	□					
		地 盤 工 学	3後	2	□	□	□	□					
	水 理	水 理 学 1	2前	2	□	□	○	○					
		水 理 学 2	2後	2	○	□	○	□					
		河 海 工 学	3前	2	□	□	□	□					
	計 画	土 木 計 画 学	3前	2	○	□	○	□					
		交 通 シ ス テ ム 工 学	2前	2	○	□	○	□					
		都 市 計 画	2後	2	□	○	□	□					
	環 境	環 境 工 学 1	2前	2	○	□	○	□					
		環 境 工 学 2	2後	2	□	□	○	□					
		環 境 シ ス テ ム	3前	2	□	□	○	□					
	綜 合 ・ 構 造 ・ 環 境 コ ー ス	綜 合	資 源 リ サ イ ク ル	3後	2	○	○	○			○	(総合) 必修科目(○)および 「都市創造最前線」・「建設 施工学」から1科目以上、 「地震工学」・建設マネー ジメント」から1科目以上 総合7科目の中から5科目 以上 演習6科目の中から2科目 以上	
			都 市 創 造 最 前 線	3後	2	□	□	○			□		
			建 設 施 工 学	3前	2	□	□	□			□		
地 震 工 学			4前	2	○	□	□	□					
建 設 マ ネ ー ジ ム ン ト			4前	2	□	□	□	□					
橋 梁 工 学			3後	2	□	□	□	□					
防 災 工 学			3後	2	□	□	□	□					
構 造 力 学 演 習			2後	2	□	□	□	□					
土 質 力 学 演 習			2後	2	□	□	□	□					
水 理 学 演 習			2後	2	□	□	○	□					
演 習	演 習	地 域 ・ 計 画 学 演 習	3後	2	□	□	□	□	総合の指定選択必修科目 (□)から2科目以上 演習の指定選択必修科目 (□)から2科目以上				
		鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 演 習	3前	2	□	□	□	□					
		3D-CAD設計演習(設計製図含む)	3後	3	□	○	□	□					
		建 設 材 料 実 験	3前	1	○	○	□	□					
実 験	実 験	土 質 実 験	3前	1	○	○	□	□	(環境) 必修科目(○)および指 定 選択必修科目(□)から修 得				
		水 理 実 験	3後	1	○	□	○	□					
		衛 生 実 験	3後	1	○	□	○	□					
		都 市 創 造 デ ザ イ ン 1	2後	1	○	○	□	-					
デ ザ イ ン	デ ザ イ ン	都 市 創 造 デ ザ イ ン 2	3後	1	○	○	○	-	(自然エネルギー) 必修科目(○)および 演習の指定選択必修科目 (□)から2科目以上				

(1)1年間の履修制限 50単位

(2)卒業要件単位には必修科目(○印)、指定選択科目(□印)のみ算入される。

(3)3年次終了時点で卒業要件93単位以下は卒業研究に着手できない。

(専門教育科目:総合・構造・環境コース科目 / 自然エネルギーコース科目)

○必修科目 □指定選択必修科目 -コースで履修できない科目

区分	科目名称	開講 年 期	単 位	総 合	構 造	環 境	ル ー ト 1	自 然 エ ネ ル ギ ー	学習・教育到達目標の 修了要件科目数	備考
総合・ 構造・ 環境コース	まちづくり論 1	3前	2		□	□			(総合) 卒業要件に算入されない (構造)(環境)(自然エネルギー) 指定選択科目(□)から 修得	
	まちづくり論 2	3前	2		□	□				
	まちづくり論 3	3後	2		□	□				
	特別講義 1	3前	2		□					
	特別講義 2	3前	2		□					
	特別講義 3	3後	2		□					
	建築学概論	4前	2		□					
	都市景観	4前	2		□	□				
	建設法規 1	3前	2		□					
	建設法規 2	3後	2							
特別講義 A	3前	2		□			-			
特別講義 B	3後	2		□			-			
専門 教育 科目	自然エネルギーコース 共通科目	自然環境学概論	2前	2	-	-	-	○	自然エネルギーコース のみ履修 (自然エネルギー) 必修科目(○)を含む指 定選択科目(□)から7 科目以上	
		自然エネルギー工学概論	2後	2	-	-	-	○		
		発変電工学	3前	2	-	-	-	□		
		自然環境計測法	3前	2	-	-	-	□		
		風力エネルギー工学	3前	2	-	-	-	□		
		太陽エネルギー工学	3前	2	-	-	-	□		
		海洋エネルギー工学	3後	2	-	-	-	□		
		熱利用工学	3後	2	-	-	-	□		
		エネルギー貯蔵工学	3後	2	-	-	-	□		
		エネルギー伝送工学	3後	2	-	-	-	□		
	電子情報通信科目	電磁気学 1	2前	2	-	-	-	□	自然エネルギーコース のみ履修 (自然エネルギー) 指定選択科目(□)から 5科目以上	
		電磁気学 2	2後	2	-	-	-	□		
		電気回路 1	2前	2	-	-	-	□		
		電気回路 2	2後	2	-	-	-	□		
		電磁気・回路演習 1	2前	2	-	-	-	□		
電磁気・回路演習 2		2後	2	-	-	-	□			
アナログ電子回路		2後	2	-	-	-	□			
論理回路		2後	2	-	-	-	□			
制御工学 1		3前	2	-	-	-	□			
制御工学 2		3後	2	-	-	-	□			
電子デバイス概論	2後	2	-	-	-	□				
電子計測	2後	2	-	-	-	□				
デザイン	自然エネルギーデザイン1	2前	1	-	-	-	○	自然エネルギーコースのみ 履修 (自然エネルギー) 必修科目(○)を全て修得		
	自然エネルギーデザイン2	2後	1	-	-	-	○			
	自然エネルギーデザイン3	3後	1	-	-	-	○			
卒業研究	卒業研究論文	4通	6	○	○	○	-	必修科目(○)1科目修得		
	卒業研究	4通	4	-	-	-	○			

(1)1年間の履修制限 50単位

(2)卒業要件単位には必修科目(○印)、指定選択科目(□印)のみ算入される。

(3)3年次終了時点で卒業要件93単位以下は卒業研究に着手できない。

編入生
15K

(5) 都市創造工学科 15Kカリキュラム履修モデル表 (学科の学習・教育到達目標に基づく)

(全コース共通) ※印は、1年次全員履修科目 ●全コース必修科目 ○コース必修科目 ●留学生の必修科目

分野	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
実践教育科目	●都市創造入門セミナー 学習リテラシー* ○フィードバック* ●コンピュータリテラシー								(コース共通) 各コース必修科目と「日本語とコミュニケーション」、「日本語とコミュニケーション」から1科目以上を含む、他の指定選択必修科目とあわせて7科目以上
教育科目	日本語とコミュニケーション* 大阪産業大学と社会		キャリアデザイン1 インターンシップ		キャリアデザイン2 キャリアデザイン3				(コース共通) 左記11科目のうち「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上とし、他の指定選択必修科目とあわせて6科目以上 留学生は、留学生必修科目(●)および「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上を含む6科目以上
人文科学 (留学生科目)	文学	心理学	(文学)	(心理学)					(コース共通) 左記11科目のうち「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上とし、他の指定選択必修科目とあわせて6科目以上 留学生は、留学生必修科目(●)および「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上を含む6科目以上
社会科学	●日本事情1 日本国憲法	●日本事情2 現代の憲法	(経済学の基礎)	(日本国憲法)					(コース共通) 左記11科目のうち「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上とし、他の指定選択必修科目とあわせて6科目以上 留学生は、留学生必修科目(●)および「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上を含む6科目以上
教養教育科目	地理学	現代の政治	(地理学)	(現代の政治)					(コース共通) 左記11科目のうち「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上とし、他の指定選択必修科目とあわせて6科目以上 留学生は、留学生必修科目(●)および「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上を含む6科目以上
自然科学・学際領域	物質科学	科学探検史	(物質科学)	(科学探検史)					(コース共通) 左記11科目のうち「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上とし、他の指定選択必修科目とあわせて6科目以上 留学生は、留学生必修科目(●)および「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上を含む6科目以上
教育科目	環境科学	倫理学(工業倫理含む)	(環境科学)	(倫理学(工業倫理含む))					(コース共通) 左記11科目のうち「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上とし、他の指定選択必修科目とあわせて6科目以上 留学生は、留学生必修科目(●)および「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上を含む6科目以上
(留学生科目)	●日本の社会と文化	外国の社会と文化	(日本の社会と文化)	(外国の社会と文化)					(コース共通) 左記11科目のうち「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上とし、他の指定選択必修科目とあわせて6科目以上 留学生は、留学生必修科目(●)および「文学」・「心理学」・「経済学の基礎」・「倫理学」から1科目以上を含む6科目以上
英語	英語L&S1	英語L&S2	英語L&S3	英語L&S4	英語総合(上級)1	英語総合(上級)2			(コース共通) 左記外国語のうち英語4科目以上とし、他の指定選択必修科目(1言語)とあわせて8科目以上 留学生は、総合総合コースのみ英語4単位以上
言語文化科目	英語R&W1	英語R&W2	英語R&W3	英語R&W4					(コース共通) 左記外国語のうち英語4科目以上とし、他の指定選択必修科目(1言語)とあわせて8科目以上 留学生は、総合総合コースのみ英語4単位以上
初級外国語	ドイツ語入門1	ドイツ語入門2	ドイツ語初級1	ドイツ語初級2					(コース共通) 左記外国語のうち英語4科目以上とし、他の指定選択必修科目(1言語)とあわせて8科目以上 留学生は、総合総合コースのみ英語4単位以上
文化科目	フランス語入門1	フランス語入門2	フランス語初級1	フランス語初級2					(コース共通) 左記外国語のうち英語4科目以上とし、他の指定選択必修科目(1言語)とあわせて8科目以上 留学生は、総合総合コースのみ英語4単位以上
文化科目	中国語入門1	中国語入門2	中国語初級1	中国語初級2					(コース共通) 左記外国語のうち英語4科目以上とし、他の指定選択必修科目(1言語)とあわせて8科目以上 留学生は、総合総合コースのみ英語4単位以上
日本語(留学生科目)	●日本語読解1	●日本語読解2	●日本語読解1	●日本語読解2	●上級日本語読解	●上級日本語読解2			(コース共通) 左記外国語のうち英語4科目以上とし、他の指定選択必修科目(1言語)とあわせて8科目以上 留学生は、総合総合コースのみ英語4単位以上
身体科学科目	●日本語作文1	●日本語作文2	●日本語作文1	●日本語作文2	●上級日本語作文1	●上級日本語作文2			(コース共通) 左記外国語のうち英語4科目以上とし、他の指定選択必修科目(1言語)とあわせて8科目以上 留学生は、総合総合コースのみ英語4単位以上
身体科学科目	スポーツ科学実習1	スポーツ科学実習2							(コース共通) 左記外国語のうち英語4科目以上とし、他の指定選択必修科目(1言語)とあわせて8科目以上 留学生は、総合総合コースのみ英語4単位以上

総合教育科目のうち、上記科目のみ卒業要件単位に参入される(自然エネルギーコースを除く)。
 *実履教育科目は、3年次修了時点において8単位以上修得すること(卒業研究着手の履修制限)。
 *総合教育科目は、3年次修了時点において20単位以上修得すること(卒業研究着手の履修制限)。
 *総合教育科目の卒業要件単位数は、言語文化科目(英語4単位以上を含む)8単位以上、かつ20単位以上。

15K
編入生

都市創造工学科 15Kカリキュラム履修モデル表 (学科の学習・教育到達目標に基づく)

(全コース共通) ※印は、1年次全員履修科目 ◎全コース必修科目 ○コース必修科目

分野	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
数学	解析学1	○解析学2	解析学3		工学基礎数学1				(総合) 必修科目および「工学基礎数学1」・「工学基礎数学2」の1科目以上、物理4科目の中から2科目以上を含む9科目以上 (構造) 物理4科目の中から2科目以上を含む7科目以上 (環境)
	代数学1	○代数学2	代数学3						
	数学演習1	○数学演習2							
	基礎数学および演習	(解析学1) (代数学1) (数学演習1)	(○解析学2) (○代数学2) (○数学演習2)	(解析学3) (代数学3)					
自然科学	物理学1および演習	物理学2							必修科目および化学4科目の中から2科目以上を含む7科目以上 (自然エネルギー) 「工学基礎数学1」・「工学基礎数学2」から1科目以上、「物理学実験」・「化学実験」から1科目以上、物理・化学8科目の中から2科目以上を含む7科目以上
	基礎物理学および演習	(物理学1および演習)	(物理学2)						
	化学1および演習	化学2							
	基礎化学および演習	(化学1および演習)	(化学2)						
情報処理	(○) 化学実験								
	○コンピュータリテラシー		(○) CAD演習1	(○) CAD演習2					

*4年間で卒業するためには、数学、物理、化学のプレイスメントで指定された科目*の単位は1年次で必ず修得すること。

都市創造成工学科 15Kカリキュラム履修モデル表 (学級の学習・教育到達目標に基づく)

※印は、1年次全員履修科目 ◎全コース必修科目 ○コース必修科目

分野	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
(コース共通)	◎測星学1* 地球科学*	測星学2* ◎環境生態*	◎測星学実習		◎工学英語 ◎工学倫理	◎工学英語 ◎資源リサイクル			(総合) 必修科目およびCAD演習1、CAD演習2から1科目以上、[材料学]・[機械工学]から1科目以上を含む6科目以上 (構造) (環境) (自然工学科) 必修科目および指定選択必修科目から修得
(建設材料)			◎建設材料		(○) 鉄筋コンクリート 鉄筋コンクリート演習 道路工学 ◎建設材料実験				(総合) 必修科目を含む2科目以上
(構造力学)			(○) 構造力学1	◎構造力学2 構造力学演習		(○) 構造工学 構梁工学			(総合) 必修科目を含む1科目以上
(地盤工学)			(○) 土質力学1	◎土質力学2 土質力学演習		地盤工学			(総合) 必修科目を含む2科目以上
(水工水理学)			(○) 水理学1	◎水理学2 (○) 水理学演習	河海工学 ◎土木計画学	◎水理実験			(総合) 必修科目を含む2科目以上
(土木計画学・ 交通システム(工学))			◎交通システム工学	(○) 都市計画	◎土木計画学	地域・計画学演習			(総合) 必修科目を含む2科目以上
(環境工学)			◎環境工学1	(○) 環境工学2	(○) 環境システム	◎衛生実験			(総合) 必修科目を含む2科目以上

